

大学等名	宮崎大学
プログラム名	宮崎大学データサイエンス・AI教育プログラム(応用基礎)

プログラムを構成する授業科目について

① 申請単位
 大学等全体のプログラム
 ③ 教育プログラムの修了要件
 学部・学科によって、修了要件は相違する

② 対象となる学部・学科名称
 教育学部、医学部、農学部(令和6年度以前入学生)、地域資源創成学部

④ 修了要件
 <4科目受講の場合>
 必修科目「データサイエンス入門」又は「データサイエンス入門N」(2単位)から1科目2単位、プログラミング系科目群(「データサイエンス応用」(1単位)、「データサイエンス応用基礎 -プログラミング-」(1単位))から1科目1単位、統計学科目群(「統計学基礎」、「統計学基礎R」、「確率・統計学Ⅰ」、「教育統計法」、「疫学・保健統計」)から1科目1単位又は2単位、データサイエンス・AI実践科目群(「データサイエンス分析実践」、「統計データによる地域課題分析」、「植物生産データエンジニアリング」、「森林計画学実習」、「食品機能化学実験」、「生物機能科学実験」、「次世代技術と産業」「疫学演習」)から1科目1単位又は2単位の計4科目(5単位、6単位又は7単位)を取得すること。
 <3科目受講の場合>
 必修科目「データサイエンス入門」又は「データサイエンス入門N」(2単位)から1科目2単位、プログラミング系科目群(「データサイエンス応用」(1単位)、「データサイエンス応用基礎 -プログラミング-」(1単位))から1科目1単位、統計学科目群(兼)データサイエンス・AI実践科目群から「データサイエンス応用基礎-PBL-」(※)の1科目1単位の計3科目(4単位)を取得すること。(※当該科目は統計科目群とデータサイエンス・AI実践科目群の両方をクリアする科目です)

必要最低単位数
 4
 単位
 履修必須の有無
 令和8年度以降に履修必須とする計画、又は未定

⑤ 応用基礎コア「Ⅰ. データ表現とアルゴリズム」の内容を含む授業科目

授業科目	単位数	必須	1-6	1-7	2-2	2-7	授業科目	単位数	必須	1-6	1-7	2-2	2-7
データサイエンス応用	1	○		○	○	○							
統計学基礎	2		○										
統計学基礎R	2		○										
確率・統計学Ⅰ	2		○										
教育統計法	2		○										
データサイエンス入門N	2		○										
データサイエンス基礎応用 -プログラミング-	1			○	○	○							
データサイエンス応用基礎 -PBL-	1		○										
疫学・保健統計	1		○										

⑥ 応用基礎コア「Ⅱ. AI・データサイエンス基礎」の内容を含む授業科目

授業科目	単位数	必須	1-1	1-2	2-1	3-1	3-2	3-3	3-4	3-5	3-9	3-10	授業科目	単位数	必須	1-1	1-2	2-1	3-1	3-2	3-3	3-4	3-9
データサイエンス入門	2		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○											
データサイエンス入門N	2		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○											
データサイエンス応用	1	○						○	○		○	○											
データサイエンス基礎応用 -プログラミング-	1							○	○		○	○											
データサイエンス応用基礎 -PBL-	1			○																			

⑦ 応用基礎コア「Ⅲ. AI・データサイエンス実践」の内容を含む授業科目

授業科目	単位数	必須	授業科目	単位数	必須
データサイエンス分析実践	1				
統計データによる地域課題分析	2				
森林計画学実習	1				
植物生産データエンジニアリング	1				
食品機能化学実験	1				
生物機能科学実験	1				
次世代技術と産業	2				
疫学演習	2				

⑧ 選択項目・その他の内容を含む授業科目

授業科目	選択項目	授業科目	選択項目
Pythonプログラミング演習	データエンジニアリング応用基礎		

⑨ プログラムを構成する授業の内容

授業に含まれている内容・要素		講義内容
(1) データサイエンスとして、統計学を始め様々なデータ処理に関する知識である「数学基礎(統計数理、線形代数、微分積分)」に加え、AIを実現するための手段として「アルゴリズム」、「データ表現」、「プログラミング基礎」の概念や知識の習得を目指す。	1-6	<ul style="list-style-type: none"> ・代表値(平均値、中央値、最頻値)、分散、標準偏差「データサイエンス入門N」(6,7回目)「統計学基礎」(3回目)「統計学基礎R」(1-4回目)「確率・統計学Ⅰ」(5回目)「教育統計法」(9-11回目) ・相関係数、相関関係と因果関係「データサイエンス入門N」(9回目)「統計学基礎」(13-15回目)「統計学基礎R」(13,14回目)「確率・統計学Ⅰ」(6回目)「教育統計法」(6回目) ・正規分布「データサイエンス入門N」(8回目)「統計学基礎」(4回目)「統計学基礎R」(3回目)「確率・統計学Ⅰ」(13回目)「教育統計法」(4回目) ・推定、検定「データサイエンス入門N」(13,14,15回目)「統計学基礎」(10-12回目)「統計学基礎R」(4,7,8回目)「確率・統計学Ⅰ」(14,15回目)「教育統計法」(7,8回目) ・疫学・保健統計「1,2回目」 ・データサイエンス応用基礎 -PBL-「(4回目)」
	1-7	<ul style="list-style-type: none"> ・アルゴリズムの表現(フローチャート)「データサイエンス応用」(2回目) ・並び替え(ソート)、探索(サーチ)「データサイエンス応用」(2回目) ・ソートアルゴリズム、バブルソート「データサイエンス応用」(2回目) ・プログラムの基礎5:アルゴリズム「データサイエンス応用基礎 -プログラミング-」(7回目)
	2-2	<ul style="list-style-type: none"> ・コンピュータで扱うデータ(数値、文章、画像、音声、動画など)「データサイエンス応用」(1回目) ・構造化データ、非構造化データ「データサイエンス応用」(2回目) ・木構造(ツリー)、グラフ「数理情報Ⅰ」「データサイエンス応用」(7回目) ・データ構造「データサイエンス応用基礎 -プログラミング-」(4回目)
	2-7	<ul style="list-style-type: none"> ・文字型、整数型、浮動小数点型「データサイエンス応用」(1回目) ・変数、代入、四則演算、論理演算「データサイエンス応用」(1回目) ・関数「データサイエンス応用」(2回目) ・順次、分岐、反復の構造を持つプログラムの作成「データサイエンス応用」(3,4回目) ・プログラミングの基礎(変数、関数、順次、分岐、反復)「データサイエンス応用基礎 -プログラミング-」(1,2,3,4回目)
(2) AIの歴史から多岐に渡る技術種類や応用分野、更には研究やビジネスの現場において実際にAIを活用する際の構築から運用までの一連の流れを知識として習得するAI基礎的なものに加え、「データサイエンス基礎」、「機械学習の基礎と展望」、及び「深層学習の基礎と展望」から構成される。	1-1	<ul style="list-style-type: none"> ・データサイエンス活用事例(知識発見、計画策定、判断支援、活動代替など)「データサイエンス入門」(1-15回目),「データサイエンス入門N」(1,2回目)
	1-2	<ul style="list-style-type: none"> ・データ分析の進め方「データサイエンス入門」(7,12,14回目) ・標本調査「データサイエンス入門」(3,4,12回目) ・様々なデータ分析手法(回帰、分類など)「データサイエンス入門」(7回目) ・様々なデータ可視化手法(分布、変化など)「データサイエンス入門」(6,8,11回目) ・データの構造、変数のタイプ「データサイエンス入門N」(第5回目) ・データの中心傾向を表す指標「データサイエンス入門N」(第6回目) ・データのばらつきを表す指標「データサイエンス入門N」(第7回目) ・統計解析4(推定と検定)「データサイエンス応用基礎 -PBL-」(5回目)
	2-1	<ul style="list-style-type: none"> ・ビッグデータ「データサイエンス入門」(4,6,8回目) ・ビッグデータの収集と蓄積「データサイエンス入門」(6,8回目) ・クラウドサービス、ビッグデータ活用事例「データサイエンス入門」(6,8回目),「データサイエンス入門N」(2回目)
	3-1	<ul style="list-style-type: none"> ・AIの歴史、推論、探索「データサイエンス入門」(1,15回目),「データサイエンス入門N」(2回目) ・汎用AI/特化型AI(強いAI/弱いAI)「データサイエンス入門」(1,15回目),「データサイエンス入門N」(2回目) ・AI技術の活用領域の広がり(ヘルスケア)「データサイエンス入門」(1,12,15回目),「データサイエンス入門N」(2回目)
	3-2	<ul style="list-style-type: none"> ・AI倫理、AIの社会的受容性「データサイエンス入門」(1回目),「データサイエンス入門N」(2回目) ・AIの公平性、AIの信頼性「データサイエンス入門」(1回目),「データサイエンス入門N」(2回目)
	3-3	<ul style="list-style-type: none"> ・実世界で進む機械学習の応用と発展(需要予測、商品推薦)「データサイエンス入門」(11回目) ・実世界で進む機械学習の応用と発展(異常検知)「データサイエンス入門」(5,7回目) ・機械学習、教師あり学習、教師なし学習、強化学習「データサイエンス入門」(1,15回目)「データサイエンス応用」(7,8回目),「データサイエンス入門N」(2回目) ・AIの機械学習・推論1:NNIによる手書き文字認識「データサイエンス応用基礎 -プログラミング-」(5回目)
	3-4	<ul style="list-style-type: none"> ・実世界で進む深層学習の応用と革新(画像認識、自然言語処理、音声生成など)「データサイエンス入門」(1,15回目)「データサイエンス応用」(7,8回目),「データサイエンス入門N」(2回目) ・ニューラルネットワークの原理「データサイエンス入門」(1,15回目)「データサイエンス応用」(7,8回目),「データサイエンス入門N」(2回目) ・ディープニューラルネットワーク(DNN)「データサイエンス入門」(1,15回目)「データサイエンス応用」(7,8回目) ・AIの機械学習・推論3:深層学習による画像認識「データサイエンス応用基礎 -プログラミング-」(6回目)
	3-5	<ul style="list-style-type: none"> ・生成AIの基礎・原理, 生成AIの情報セキュリティ, 生成AIのリスク, 生成AIの活用事例「データサイエンス入門」(14回目)「データサイエンスN」(6回目)
	3-9	<ul style="list-style-type: none"> ・AIの学習と推論、評価、再学習「データサイエンス入門」(1,15回目)「データサイエンス応用」(7,8回目) ・AIの社会実装、ビジネス/業務への組み込み「データサイエンス入門」(1,8,11,15回目),「データサイエンス入門N」(2回目) ・AIの機械学習・推論1, 推論2, 推論3「データサイエンス応用基礎 -プログラミング-」(5,6,7回目)
	3-10	<ul style="list-style-type: none"> ・AIの構築と運用「データサイエンス入門」(15回目) ・機械学習, AIの学習と推論, 強いAIと弱いAI「データサイエンスN」(2回目) ・教師あり学習2:ニューラルネットの原理, 分類問題 ・AIの機械学習・推論1, 推論2, 推論3「データサイエンス応用基礎 -プログラミング-」(5,6,7回目)

<p>(3)本認定制度が育成目標として掲げる「データを人や社会にかかわる課題の解決に活用できる人材」に関する理解や認識の向上に資する実践の場を通じた学習体験を行う学修項目群。応用基礎コアのなかでも特に重要な学修項目群であり、「データエンジニアリング基礎」、及び「データ・AI活用 企画・実施・評価」から構成される。</p>	I	<p>・「数学数理(統計数理)」</p> <p>「データサイエンス分析実践」、「統計データによる地域課題分析」、「次世代技術と産業」の講義において、統計データはまた提供された実データを用い、チーム内で議論し、協働して統計学を主とするデータサイエンスを用いて分析・可視化することを通して、課題解決力やコミュニケーション能力を身に付ける。また、「データサイエンス分析実践」、「統計データによる地域課題分析」においては最後に実施する発表会(プレゼンテーション)等にて学生相互で提案内容を客観的に検討する機会を設ける。</p>
	II	<p>・データサイエンス活用事例(知識発見、計画策定、判断支援、活動代替など)</p> <p>「植物生産データエンジニアリング」、「農林計画学実習」、「食品機能化学実験」、「生物機能科学実験」においては、農学分野における数理・データサイエンス・AI活用事例を学ぶ。「疫学演習」においては、医学分野におけるデータサイエンスの活用事例を学ぶ。学生は、自分の専門分野における諸問題を実データを対象に「データ・AI活用、企画・実施・評価」の理解を深めることができ、これらの実験をとおして、学生は実践力を修得することができる。</p>

⑩ プログラムの学修成果(学生等が身に付けられる能力等)

<p>a)目的に応じて適切なデータ収集・抽出・分析を行う能力やAI技術を活用し課題解決につなげることができる</p> <p>b)数理・データサイエンスの考え方を自然科学から人文・社会科学における様々な問題に応用できる</p> <p>c)数理やコンピュータの知識や技術を用いて様々なデータの情報処理を行い、考察ができる</p> <p>d)各種データの統計的な取り扱いの方法について理解し、統計量の計算をすることができる</p> <p>e)代表的なデータサイエンスの手法を使ってデータの処理ができ、現実の問題に適用できる</p>
--

大学等名	宮崎大学
プログラム名	宮崎大学データサイエンス・AI教育プログラム(応用基礎)

プログラムを構成する授業科目について

① 申請単位

大学等全体のプログラム

 ③ 教育プログラムの修了要件

学部・学科によって、修了要件は相違する

② 対象となる学部・学科名称

工学部

④ 修了要件

プログラムを構成する工学部の工学基礎科目(必修科目)「数理情報Ⅰ」、「数理情報Ⅱ」と共通融合科目(必修科目)「プロジェクト演習」の計3科目、合計5単位を取得すること。

必要最低単位数

5

 単位 履修必須の有無

令和4年度以前より、履修することが必須のプログラムとして実施

⑤ 応用基礎コア「Ⅰ. データ表現とアルゴリズム」の内容を含む授業科目

授業科目	単位数	必須	1-6	1-7	2-2	2-7	授業科目	単位数	必須	1-6	1-7	2-2	2-7
数理情報Ⅰ	2	○		○	○	○							
数理情報Ⅱ	2	○	○			○							

⑥ 応用基礎コア「Ⅱ. AI・データサイエンス基礎」の内容を含む授業科目

授業科目	単位数	必須	1-1	1-2	2-1	3-1	3-2	3-3	3-4	3-9	授業科目	単位数	必須	1-1	1-2	2-1	3-1	3-2	3-3	3-4	3-9
数理情報Ⅰ	2	○	○		○	○	○	○	○	○											
数理情報Ⅱ	2	○		○																	

⑦ 応用基礎コア「Ⅲ. AI・データサイエンス実践」の内容を含む授業科目

授業科目	単位数	必須	授業科目	単位数	必須
プロジェクト演習	1	○			

⑧ 選択項目・その他の内容を含む授業科目

授業科目	選択項目	授業科目	選択項目
データサイエンス入門	AI応用基礎		
データサイエンス入門	データサイエンス応用基礎		

⑨ プログラムを構成する授業の内容

授業に含まれている内容・要素		講義内容
(1) データサイエンスとして、統計学を始め様々なデータ処理に関する知識である「数学基礎(統計数理、線形代数、微分積分)」に加え、AIを実現するための手段として「アルゴリズム」、「データ表現」、「プログラミング基礎」の概念や知識の習得を目指す。	1-6	・順列、組合せ、集合、ベン図、条件付き確率(1回目)、ベイズの定理(1回目)、代表値(平均値)、分散、標準偏差(2回目)、確率変数と確率分布(2回目)、積分と面積の関係(2回目)、多項式関数、指数関数、対数関数(3,4,5回目)、正規分布(5回目)、独立同一分布点推定と区間推定(7,8回目)、関数の傾きと微分の関係、1変数関数の微分法(8回目)、有意水準(9回目)、相関係数、相関関係と因果関係(11,14,15回目)、行列の演算(13回目)※全て「数理情報Ⅰ」
	1-7	・計算量「数理情報Ⅰ」(3回目)、アルゴリズムの表現(フローチャート)「数理情報Ⅰ」(11回目)、並び替え(ソート)「数理情報Ⅰ」(7回目)、ソートアルゴリズム、バブルソート、選択ソート、挿入ソート「数理情報Ⅰ」(7回目)、探索(サーチ)「数理情報Ⅰ」(6回目)、探索アルゴリズム、木探索「数理情報Ⅰ」(6回目)
	2-2	・コンピュータで扱うデータ(数値、文章、画像、音声、動画など)「数理情報Ⅰ」(2回目)、構造化データ、非構造化データ「数理情報Ⅰ」(2回目)、木構造(ツリー)、グラフ「数理情報Ⅰ」(2回目)、画像の符号化、画素(ピクセル)、色の3要素(RGB)「数理情報Ⅰ」(4回目)、周波数、標本化、量子化「数理情報Ⅰ」(4回目)
	2-7	・変数、代入、四則演算、論理演算「数理情報Ⅰ」(11,12,13回目)、「数理情報Ⅱ」(12回目) ・関数「数理情報Ⅰ」(11回目)、「数理情報Ⅱ」(12,13,14,15回目)、順次、分岐、反復の構造を持つプログラムの作成「数理情報Ⅰ」(11,12,13回目)、「数理情報Ⅱ」(13,14回目)
(2) AIの歴史から多岐に渡る技術種類や応用分野、更には研究やビジネスの現場において実際にAIを活用する際の構築から運用までの一連の流れを知識として習得するAI基礎的なものに加え、「データサイエンス基礎」、「機械学習の基礎と展望」、及び「深層学習の基礎と展望」から構成される。	1-1	・データサイエンス活用事例(知識発見、計画策定、判断支援、活動代替など)「数理情報Ⅰ」(1回目)
	1-2	・標本調査「数理情報Ⅱ」(9回目)、様々なデータ分析手法(回帰、分類など「数理情報Ⅱ」)(11,12,13回目)、様々なデータ可視化手法(分布、変化など)「数理情報Ⅱ」(11,12,13回目)、データ分析の進め方「数理情報Ⅱ」(14,15回目)、分析目的の設定「数理情報Ⅱ」(14,15回目)
	2-1	・ビッグデータ「数理情報Ⅰ」(2回目)、ビッグデータの収集と蓄積「数理情報Ⅰ」(2回目)、クラウドサービス「数理情報Ⅰ」(10回目)、ビッグデータ活用事例「数理情報Ⅰ」(2回目)
	3-1	・AIの歴史、推論、探索「数理情報Ⅰ」(5回目)、汎用AI/特化型AI(強いAI/弱いAI)「数理情報Ⅰ」(5回目)、人間の知的活動とAI技術(学習、認識、予測・判断、知識・言語、身体・運動)「数理情報Ⅰ」(5回目)、AI技術の活用領域の広がり(ヘルスケア)「数理情報Ⅰ」(5回目)
	3-2	・AIの説明可能性「数理情報Ⅰ」(5回目)
	3-3	・実世界で進む機械学習の応用と発展(商品推薦)「数理情報Ⅰ」(2回目)、実世界で進む機械学習の応用と発展(異常検知)「数理情報Ⅰ」(10回目)、機械学習、教師あり学習、教師なし学習、強化学習「数理情報Ⅰ」(5,14回目)
	3-4	・実世界で進む深層学習の応用と革新(画像認識、自然言語処理、音声生成など)「数理情報Ⅰ」(10回目)、ニューラルネットワークの原理「数理情報Ⅰ」(10回目)、ディープニューラルネットワーク(DNN)「数理情報Ⅰ」(10回目)
(3) 本認定制度が育成目標として掲げる「データを人や社会にかかわる課題の解決に活用できる人材」に関する理解や認識の向上に資する実践の場を通じた学習体験を行う学修項目群。応用基礎コアのなかでも特に重要な学修項目群であり、「データエンジニアリング基礎」、及び「データ・AI活用企画・実施・評価」から構成される。	I	
	II	・データサイエンス活用事例(仮説検証、知識発見、原因究明、計画策定、判断支援、活動代替など)「プロジェクト演習」(1-15回) 具体的内容:実データを数理データサイエンス・AI技術を用いて分析し、設定された実社会の課題に対して具体的解決策を提案する作業を技術的バックグラウンドの異なる学生によるチームでの協働による演習で実施する。その過程で1)技術的バックグラウンドの異なる人々との情報交換、議論、相互理解、調整、立案をはかる能力、及び2)実社会で必要とされているコミュニケーション能力や課題解決能力の学修を行う。また、最後に実施する発表会(ポスター)等にて学生相互で提案内容を客観的に評価する機会を設ける。 ・ソーシャルメディアデータ「プロジェクト演習」(2,9回) ・分析目的の設定「プロジェクト演習」(2,3,9,10回) ・様々なデータ分析手法(回帰、分類、クラスタリングなど)「プロジェクト演習」(5,6,12,13回) ・様々なデータ可視化手法(比較、構成、分布、変化など)「プロジェクト演習」(7,8,14,15回)

⑩ プログラムの学修成果(学生等が身に付けられる能力等)

a) 目的に応じて適切なデータ収集・抽出・分析を行う能力やAI技術を活用し課題解決につなげることができる b) 数理・データサイエンスの考え方を自然科学から人文・社会科学における様々な問題に応用できる c) 数理やコンピュータの知識や技術を用いて様々なデータの情報処理を行い、考察ができる d) 代表的な確率分布とその性質について理解し、現実の問題に適用できる e) 各種データの統計的な取り扱いの方法について理解し、具体的に統計量の計算をすることができる f) 代表的な多変量解析の手法を使って、データの処理ができる
--

⑨ プログラムを構成する授業の内容

授業に含まれている内容・要素		講義内容
(1)データサイエンスとして、統計学を始め様々なデータ処理に関する知識である「数学基礎(統計数理、線形代数、微分積分)」に加え、AIを実現するための手段として「アルゴリズム」、「データ表現」、「プログラミング基礎」の概念や知識の習得を目指す。	1-6	・代表値(平均値、中央値、最頻値)、分散、標準偏差「 農学・獣医学データサイエンス演習 」(4回目) ・相関係数、相関関係と因果関係「 農学・獣医学データサイエンス演習 」(5回目) ・推定、検定「 農学・獣医学データサイエンス演習 」(6回目)
	1-7	・アルゴリズムの表現(フローチャート)「 農学・獣医学データサイエンス演習 」(2,3,13-16回目)
	2-2	・コンピュータで扱うデータ(数値、文章、画像、音声、動画など)「 農学・獣医学データサイエンス演習 」(2回目)
	2-7	・文字型、整数型、浮動小数点型「 農学・獣医学データサイエンス演習 」(2回目) ・変数、代入、四則演算、論理演算「 農学・獣医学データサイエンス演習 」(2回目) ・順次、分岐、反復の構造を持つプログラムの作成「 農学・獣医学データサイエンス演習 」(3回目)
(2)AIの歴史から多岐に渡る技術種類や応用分野、更には研究やビジネスの現場において実際にAIを活用する際の構築から運用までの一連の流れを知識として習得するAI基礎的なものに加え、「データサイエンス基礎」、「機械学習の基礎と展望」、及び「深層学習の基礎と展望」から構成される。	1-1	・データサイエンス活用事例(知識発見、計画策定、判断支援、活動代替など)「 データサイエンス入門 」(1-15回目)
	1-2	・データ分析の進め方「 データサイエンス入門 」(7,12,14回目) ・標本調査「 データサイエンス入門 」(3,4,12回目) ・様々なデータ分析手法(回帰、分類など)「 データサイエンス入門 」(7回目) ・様々なデータ可視化手法(分布、変化など)「 データサイエンス入門 」(6,8,11回目)
	2-1	・ビッグデータ「 データサイエンス入門 」(4,6,8回目) ・ビッグデータの収集と蓄積「 データサイエンス入門 」(6,8回目) ・クラウドサービス、ビッグデータ活用事例「 データサイエンス入門 」(6,8回目)
	3-1	・AIの歴史、推論、探索「 データサイエンス入門 」(1,15回目) ・汎用AI/特化型AI(強いAI/弱いAI)「 データサイエンス入門 」(1,15回目) ・AI技術の活用領域の広がり(ヘルスケア)「 データサイエンス入門 」(1,12,15回目)
	3-2	・AI倫理、AIの社会的受容性「 データサイエンス入門 」(1回目) ・AIの公平性、AIの信頼性「 データサイエンス入門 」(1回目)
	3-3	・実世界で進む機械学習の応用と発展(需要予測,商品推薦)「 データサイエンス入門 」(11回目) ・実世界で進む機械学習の応用と発展(異常検知)「 データサイエンス入門 」(5,7回目) ・機械学習、教師あり学習、教師なし学習、強化学習「 データサイエンス入門 」(1,15回目)
	3-4	・実世界で進む深層学習の応用と革新(画像認識、自然言語処理、音声生成など)「 データサイエンス入門 」(1,15回目)「 農学・獣医学DX入門 」(1-15回目) ・ニューラルネットワークの原理「 データサイエンス入門 」(1,15回目) ・ディープニューラルネットワーク(DNN)「 データサイエンス入門 」(1,15回目)
	3-5	・生成AIの基礎・原理, 生成AIの情報セキュリティ, 生成AIのリスク, 生成AIの活用事例「 データサイエンス入門 」(14回目)
	3-9	・AIの学習と推論、評価、再学習「 データサイエンス入門 」(1,15回目)「 農学・獣医学データサイエンス演習 」(10-16回目) ・AIの社会実装、ビジネス/業務への組み込み「 データサイエンス入門 」(1,8,11,15回目)
(3)本認定制度が育成目標として掲げる「データを人や社会にかかわる課題の解決に活用できる人材」に関する理解や認識の向上に資する実践の場を通じた学習体験を行う学修項目群。応用基礎コアのなかでも特に重要な学修項目群であり、「データエンジニアリング基礎」、及び「データ・AI活用企画・実施・評価」から構成される。	I	
	II	・データサイエンス活用事例(知識発見、計画策定、判断支援、活動代替など)「 農学・獣医学データサイエンス演習 」ICTによるデータの収集と分析の効率化の実際について学習し、研究の基礎体力となるデータの分析を効率的に行う能力を修得する。これらの演習をとおして、学生は実践力を修得することができる。

⑩ プログラムの学修成果(学生等が身に付けられる能力等)

- a) 目的に応じて適切なデータ収集・抽出・分析を行う能力やAI技術を活用し課題解決につなげることができる
- b) 数理・データサイエンスの考え方を自然科学から人文・社会科学における様々な問題に応用できる
- c) 数理やコンピュータの知識や技術を用いて様々なデータの情報処理を行い、考察ができる
- d) 各種データの統計的な取り扱いの方法について理解し、統計量の計算をすることができる
- e) 代表的なデータサイエンスの手法を使ってデータの処理ができ、現実の問題に適用できる

開講年度	2025
講義コード	ksab1
シラバスコード	ksab1
講義名	データサイエンス応用基礎-プログラミング-
講義分類	教養教育 課題発見科目 データサイエンス系
担当教員	田村 宏樹
授業形態	演習
単位	1
対象学年	1年
開講日	後期 その他 その他
ナンバリングコード	B0240-417a-10020 分類: 教養教育部門 学問分野: NDC分類法 [417] 数学 (確率論、数理統計学) レベル: 1:学部入門レベル (主に教養(基礎)教育科目) 使用言語: 日本語で行う授業
キーワード	キーワード 情報学、NDC分類法 [000] 総記、実務経験のある教員による授業科目
授業形式	遠隔授業
連携開設科目	

授業概要

現代において、情報技術の発達やそれに伴う社会構造の変化により、研究者や一部の業種の人々だけでなくあらゆる人がデータを取り扱う状況になっている。またこれらの状況はさらに発達・発展し、産業活動をはじめあらゆる社会活動でデータの集計、加工、分析、考察やこれらを説明する能力が文系理系問わずに要求されると予測されている。本科目では、データの収集、加工、分析において使われるプログラミング（Python）の基本を学び、AIでのデータ解析までを学ぶ。

【実務経験を活かした授業内容】

・企業でのデジタル活用の最前線の内容を、講義として1コマ導入する。

育成する資質・能力（ディプロマ・ポリシーとの関連）

資質・能力	説明
教養的課題発見力	1.情報通信技術（ICT）や数量的スキルを用いて、多様な情報を情報倫理に則り収集・分析・評価し、効果的に活用することができる。 2.人文、社会、及び芸術分野の知見に触れ、人間の理解及び自己と社会の関係について論理的に考えることができる。 3.自然、生命、及び技術分野の知見に触れ、自然環境、生命現象及び先端技術の今日的課題を科学的に考えることができる。 4.地域、国際、及び学際分野の知見に触れ、現代社会の抱える諸課題を複眼的に考えることができる。

学習目標

身につける資質・能力

(1)数理やコンピュータの知識や技術を用いて様々なデータの情報処理を行い、考察ができる

(2)代表的なデータサイエンスの手法を使ってデータの処理ができ、現実の問題に適用できる

授業計画				
回数	日時	授業内容・方法	授業時間外の学修	備考
第1回	オンデマンド	プログラムの基礎1：（変数、関数、順次、分岐、反復）	小レポート	
第2回	オンデマンド	プログラムの基礎2：（変数、関数、順次、分岐、反復）	小レポート	
第3回	オンデマンド	プログラムの基礎3：（変数、関数、順次、分岐、反復）	小レポート	
第4回	オンデマンド	プログラムの基礎4：（データ構造）	小レポート	
第5回	オンデマンド	AIの機械学習・推論1：（NNによる手書き文字認識）	小レポート	
第6回	オンデマンド	AIの機械学習・推論2：（深層学習による画像認識）	小レポート	
第7回	2025年12月01日(月)	プログラムの基礎5：アルゴリズム AIの機械学習・推論3：深層学習による画像認識		12月1日（月）7-8限目に実施。この日に参加できない学生は、個別に補講日を設定する。
第8回	2025年12月01日(月)	先端のデジタル講話		12月1日（月）9-10限目に実施。この日に参加できない学生は、講話をオンデマンド形式で後日受講する。

成績評価方法	
学習目標（到達目標）	評価手段
(1)数理やコンピュータの知識や技術を用いて様々なデータの情報処理を行い、考察ができる	小レポート1-4
(2)代表的なデータサイエンスの手法を使ってデータの処理ができ、現実の問題に適用できる	小レポート5,6

成績評価基準
<p>宮崎大学教養教育科目の受講及び成績評価に関する内規による。</p> <p>成績評価基準は、下記の標語と評点により、秀、優、良、可を合格とし、不可は不合格とする。</p> <p>秀：評点90点以上（学習目標を特に優秀な水準で達成している）</p> <p>優：評点80～89点（学習目標を優秀な水準で達成している）</p> <p>良：評点70～79点（学習目標を良好に達成している）</p> <p>可：評点60～69点（学習目標の必要最低限は達成している）</p> <p>不可：評点60点未満（学習目標の必要最低限を達成していない）</p> <p>保留：評点が30点以上59点までの者に対しては再評価を実施する。</p> <p>・すべてのレポートの提出、中間試験、定期試験を受けていること。</p> <p>・出席が所定の回数に満たない者は成績評価を受けることができない。</p> <p>・中間試験、定期試験、試験に代わるレポート等における不正行為をした者は、「試験等における不正行為の取扱いに関する申告せ」に則るものとする。</p>

教材
オンデマンド教材を提供

教科書				
ISBN	書名	著者	出版	価格
	必要に応じてWebclassで配布する。			

参考書				
ISBN	書名	著者	出版	価格
	必要に応じてWebclassで配布する。			

参考URL	
サイト名	URL

参考資料**オフィスアワー**

木曜日 9－10限目

関連する授業科目

データサイエンス入門、データサイエンス応用

履修上の注意

- ・ オンデマンド教材の小テストまたはレポートを期日までに提出することで出席とする。
- ・ 8回中6回以上の出席が、評価のための条件

開講年度	2025
講義コード	ksac1
シラバスコード	ksac1
講義名	データサイエンス応用基礎 -PBL-
講義分類	教養教育 課題発見科目 データサイエンス系
担当教員	田村 宏樹
授業形態	演習
単位	1
対象学年	1年
開講日	後期 その他 その他
ナンバリングコード	B0240-417a-10020 分類: 教養教育部門 学問分野: NDC分類法 [417] 数学 (確率論、数理統計学) レベル: 1:学部入門レベル (主に教養(基礎)教育科目) 使用言語: 日本語で行う授業
キーワード	キーワード 情報学、NDC分類法 [000] 総記、
授業形式	対面授業
連携開設科目	

授業概要

現代において、情報技術の発達やそれに伴う社会構造の変化により、研究者や一部の業種の人々だけでなくあらゆる人がデータを取り扱う状況になっている。またこれらの状況はさらに発達・発展し、産業活動をはじめあらゆる社会活動でデータの集計、加工、分析、考察やこれらを説明する能力が文系理系問わずに要求されると予測されている。本科目では、社会での実例（実課題および実データ）を題材としたデータを対象とした課題解決型学習をチームワークを活用し、学ぶ。また、データ分析結果の解釈をポスター発表形式で行い、結果の共有、評価を行う。

育成する資質・能力（ディプロマ・ポリシーとの関連）

資質・能力	説明
教養的課題発見力	1.情報通信技術（ICT）や数量的スキルを用いて、多様な情報を情報倫理に則り収集・分析・評価し、効果的に活用することができる。 2.人文、社会、及び芸術分野の知見に触れ、人間の理解及び自己と社会の関係について論理的に考えることができる。 3.自然、生命、及び技術分野の知見に触れ、自然環境、生命現象及び先端技術の今日的課題を科学的に考えることができる。 4.地域、国際、及び学際分野の知見に触れ、現代社会の抱える諸課題を複眼的に考えることができる。

学習目標

身につける資質・能力

- （１）目的に応じて適切なデータ収集・抽出・分析を行う能力やAI技術を活用し課題解決につなげることができる
- （２）各種データの統計的な取り扱いの方法について理解し、統計量の計算をすることができる
- （３）代表的なデータサイエンスの手法を使ってデータの処理ができ、現実の問題に適用できる

授業計画				
回数	日時	授業内容・方法	授業時間外の学修	備考
第1回	2025年11月14日(金)	対象データの把握（課題提供企業との対話）	データに関して、確認、分析作業を各自で行うこと。	9-10限目（参加可能学生の人数により場合により変更の可能性あり） この日に参加できない学生は、個別に別日で補講を行う。
第2回	オンデマンド	統計解析1(統計ツールの紹介)	オンデマンドコンテンツの演習の実施	
第3回	オンデマンド	統計解析2(代表値、分散、箱ひげ図)	オンデマンドコンテンツの演習の実施	
第4回	オンデマンド	統計解析3(相関関係と因果関係、回帰分析)	オンデマンドコンテンツの演習の実施	
第5回	オンデマンド	統計解析4(推定と検定、決定木)	オンデマンドコンテンツの演習の実施	
第6回	2025年12月06日(土)	データ分析の実施	データに関して、確認、分析作業を各自またはチームで行うこと。	第6回から8回は集中講義形式で12月6日(土)1-2限目に実施（参加可能学生の人数により場合により変更の可能性あり） この日に参加できない学生は、個別に別日で補講を行う。
第7回	2025年12月06日(土)	データ解釈	データに関して、確認、分析作業を各自またはチームで行うこと。	第6回から8回は集中講義形式で12月6日(土)3-4限目に実施（参加可能学生の人数により場合により変更の可能性あり） この日に参加できない学生は、個別に別日で補講を行う。
第8回	2025年12月06日(土)	データ可視化	データに関して、確認、分析作業を各自またはチームで行うこと。	第6回から8回は集中講義形式で12月6日(土)5-6限目に実施（参加可能学生の人数により場合により変更の可能性あり） この日に参加できない学生は、個別に別日で補講を行う。
第9回	2026年01月31日(土)	ポスター発表会	ポスター製作作業を各自またはチームで行うこと。	集中講義形式で1月31日(土)3-4限目に実施（参加可能学生の人数により場合により変更の可能性あり）

成績評価方法	
学習目標（到達目標）	評価手段
（1）目的に応じて適切なデータ収集・抽出・分析を行う能力やAI技術を活用し課題解決につなげることができる	発表
（2）各種データの統計的な取り扱いの方法について理解し、統計量の計算をすることができる	レポート
（3）代表的なデータサイエンスの手法を使ってデータの処理ができ、現実の問題に適用できる	発表

成績評価基準

宮崎大学教養教育科目の受講及び成績評価に関する内規による。
成績評価基準は、下記の標語と評点により、秀、優、良、可を合格とし、不可は不合格とする。

- 秀：評点90点以上（学習目標を特に優秀な水準で達成している）
- 優：評点80～89点（学習目標を優秀な水準で達成している）
- 良：評点70～79点（学習目標を良好に達成している）
- 可：評点60～69点（学習目標の必要最低限は達成している）
- 不可：評点60点未満（学習目標の必要最低限を達成していない）

保留：評点が30点以上59点までの者に対しては再評価を実施する。

- ・すべてのレポートの提出、中間試験、定期試験を受けていること。
- ・出席が所定の回数に満たない者は成績評価を受けることができない。
- ・中間試験、定期試験、試験に代わるレポート等における不正行為をした者は、「試験等における不正行為の取扱いに関する申告せ」に則るものとする。

教材

E-learning教材提供

教科書

ISBN	書名	著者	出版	価格
	必要に応じてWebclassで配布する。			

参考書

ISBN	書名	著者	出版	価格
	必要に応じてWebclassで配布する。			

参考URL

サイト名	URL

参考資料**オフィスアワー**

木曜日 9～10限目

関連する授業科目

データサイエンス入門

履修上の注意

- ・オンデマンド教材の小テストまたはレポートを期日までに提出することで出席とする。
- ・9回中7回以上の出席が、評価のための条件

開講年度	2025
講義コード	JBa30
シラバスコード	JBa30
講義名	疫学・保健統計
講義分類	医学部 看護学科 専門基礎科目
担当教員	板谷 智也
授業形態	講義
単位	1
対象学年	2年
開講日	後期 その他 その他
ナンバリングコード	B2042-WY*b-20010 分類: 医学部 看護学科 学問分野: NLM分類法 [WY] 看護学 レベル: 2:学部初級レベル（主に2年次生を対象とした科目） 使用言語: 日本語で行う授業
キーワード	統計学 NLM分類法 [WY] 看護学
授業形式	対面授業
連携開設科目	

授業概要

（授業目的）

本授業では、疫学と保健統計の基礎概念から実践的な手法までを体系的に学びます。因果推論、有病率、罹患率など疫学の主要な指標と計算方法を理解し、さらに症例対照研究やコホート研究といった疫学調査法を通じて実践力を高めます。データ収集や集計にはエクセルやGoogleフォームを使用し、データ分析の手順を体験的に習得します。また、スクリーニング検査の評価方法やROC曲線など応用的な統計手法を学ぶことで、実際の保健医療の現場で活用できる基礎を築きます。最終的にはチームで疫学保健統計に基づいた成果物を作成し、相互評価を通じて理解を深めるとともに、学んだ内容を応用できる力を養います。

（授業目標）

- ① 疫学」の概念を理解した上で、因果推論の概要を説明することができる
- ② 疫学調査法を適切に分類し、オッズ比やリスク比などの計算ができる
- ③ 統計学で用いるデータの種類を理解し、適切な集計・分析方法を選択でき、アプリケーションで実際に計算ができる
- ④ 実際の疫学調査になぞらえて、データ収集と分析、考察を行うことができる
- ⑤ 有病率と罹患率等の疫学に関連する統計データについて計算することができ、かつ他者に説明できる
- ⑥ 検査精度について、感度、特異度、陽性反応的中率、陰性反応的中率が計算できる

（授業の方法）

本授業では、講義と演習を組み合わせた実践的なアプローチを採用します。エクセルやGoogleフォームを活用し、実際にデータを操作しながら疫学と保健統計の基礎概念を体得していきます。さらに、感染症シミュレーションやスクリーニング検査評価などの実務に即した活動を通じて、統計的思考と応用力を深めます。学生間の協働学習を重視し、チームでの成果物作成や相互評価を通じて学びを深めます。

（評価方法）＊Google classroomも参照してください

出席点（15点）：Google classroomの出席確認ワードおよび電子リアクションペーパーへの入力で2点を配点します(第8回のみ1点)。

疫学調査ワーク（15点）：第5回で実施するプレゼンテーションでのパフォーマンスを評価します。学生間相互評価です。

動画作成ワーク（10点）：第6回で作成する動画のクオリティを評価します。学生間相互評価です。

試験（60点）：授業で学んだ内容の理解を評価します。

（キーワード）

1. 疫学の概念
 - 1) 疫学とは
 - 2) 疫学の歴史
2. 疫学的研究方法
 - 1) コホート研究（リスク比、リスク差）
 - 2) 症例対照研究（オッズ比）

- 3) 生態学的研究
- 4) 横断研究
- 5) 介入研究
- 3. 集団の健康事象の把握
 - 1) 人口静態統計と人口動態統計
 - 2) 生命表
 - 3) 有病率と罹患率
 - 4) 年齢調整死亡率
- 4. 主な疾患の疫学
- 5. 検査精度の評価
 - 1) 感度
 - 2) 特異度
 - 3) 陽性反応的中率
 - 4) 陰性反応的中率
 - 5) ROC曲線
- 6. 統計学の基礎
 - 1) 記述統計
 - 2) 母集団と標本
 - 3) 代表値と散布度
 - 4) 相関係数

指定規則に定める別表の種類とそれぞれの別表に定める教育内容のうち、当該科目で教授する教育内容
(1 単位、15 時間)

別表 3：専門基礎分野「健康支援と社会保障制度」

別表 1：「疫学」「保健統計学」

【実務経験を生かした授業内容】

本授業の担当教員は、疫学調査や保健統計の実務経験を活かし、現場でのデータ活用や分析手法を具体的に指導します。データ収集から分析、解釈、報告までのプロセスを分かりやすく解説し、学生が実際の業務で応用できるスキルを養います。これにより、学生は疫学的アプローチや統計的思考を基に問題解決に貢献できる実践力を身につけます。

育成する資質・能力（ディプロマ・ポリシーとの関連）

資質・能力	説明
知識・技能	自然や社会的事象について、シンボルを活用して分析し、理解し、表現することができる。

学習目標

身につける資質・能力

- ① 「疫学」の概念を理解した上で、因果推論の概要を説明することができる
- ② 疫学調査法を適切に分類し、オッズ比やリスク比などの計算ができる
- ③ 統計学で用いるデータの種類を理解し、適切な集計・分析方法を選択でき、アプリケーションで実際に計算ができる
- ④ 実際の疫学調査になぞらえて、データ収集と分析、考察を行うことができる
- ⑤ 有病率と罹患率等の疫学に関連する統計データについて計算することができ、かつ他者に説明できる
- ⑥ 検査精度について、感度、特異度、陽性反応的中率、陰性反応的中率が計算できる

授業計画				
回数	日時	授業内容・方法	授業時間外の学修	備考
第1回	2025年10月03日(金) 1～2 時限	オリエンテーション&グループ編成 疫学概念 因果推論 有病率と罹患率 ワーク：エクセルで集計作業をやってみる 担当者：板谷智也	有病率と罹患率について予習を してください。授業後はエクセル の集計作業ができるよう復習 してください。	この授業では4人 一組でチームを編 成し、協力して学 修を進めます。
第2回	2025年10月03日(金) 3～4 時限	疫学調査法の分類 症例対照研究とコホート研究 リスク比(差)とオッズ比 ワーク：ミニ疫学調査 担当者：板谷智也	疫学調査法について予習し、不 明な点を授業で解決してくださ い。授業後はオッズ比とリスク 比の計算ができるようにしてく ださい。	疫学調査の基礎を 学び、実際にエク セルを操作してみ ます。PC必携です。
第3回	2025年10月10日(金) 1～2 時限	疫学の三要素 ワーク：感染症シミュレーションゲーム 担当者：板谷智也	疫学の三要素および感染の三要 素について学修してください。	3階地域実習室で 実施します。動き 回るので積極的に ご参加ください。
第4回	2025年10月10日(金) 3～4 時限	保健統計の基礎 データの種類と分析方法 ワーク：実践で学ぶ保健統計の分析 担当者：板谷智也 *後半は次回のワークの準備あり	データの種類について調べ、そ れぞれどのような分析ができる か事前に考えてみてください。 授業後は実際に分析ができるよ うに練習してください。	実際にデータ収集 から分析までやっ てみます。積極的 なアクティビティ を期待します。
第5回	2025年10月17日(金) 1～2 時限	保健統計実践編 ワーク：実践！Googleフォームとスプレッドシートを使った疫学調査	過去の授業（特に第4回）の 内容をしっかり復習しワークに臨 んでください。スライドの作成 もありますので、パワポ等の操 作方法も事前に確認してくださ い。	実際に疫学調査 (アンケート調査) を実施し、分析、 考察、資料作成を 行います。資料は 相互評価し成績に 反映します。
第6回	2025年10月17日(金) 3～4 時限	人年法、罹患率、累積罹患率 年齢調整死亡率とSMR スクリーニング検査・ROC曲線 ワーク：誰でもわかる疫学保健統計動画をつくってみる 担当者：板谷智也	疫学保健統計全般について学修 してください。	動画は相互学習に 活用します。また、 動画は相互評価を 行い成績に反映し ます。
第7回	2025年10月24日(金) 1～2 時限	スクリーニング検査の評価(計算) ワーク：検査精度を評価してみよう 日本の人口動態・静態&主要統計 総まとめ ワーク：相互学習による試験対策 担当者：板谷智也	スクリーニング検査の評価方法 について予習してください。授 業後は実際に計算ができるよ うにしてください。	前半のワークでは 皆さん自身が検査 機器になってもら います。後半のワ ークは試験対策です。
第8回	2025年10月24日(金) 3～4 時限	総まとめ ワーク：疫学保健統計の問題を解いてみる 担当者：板谷智也	これまでの内容について改めて 学修してください。	問題を解いてみま す。この得点は成 績に反映されます。 振り返りも行いま す。

成績評価方法	
学習目標（到達目標）	評価手段
① 「疫学」の概念を理解した上で、因果推論の概要を説明することができる	試験
② 疫学調査法を適切に分類し、オッズ比やリスク比などの計算ができる	試験
③ 統計学で用いるデータの種類を理解し、適切な集計・分析方法を選択でき、アプリケーションで実際に計算ができる	試験
④ 実際の疫学調査になぞらえて、データ収集と分析、考察を行うことができ	疫学調査ワーク 試験
⑤ 有病率と罹患率等の疫学に関連する統計データについて計算することができ、かつ他者に説明できる	動画作成ワーク 試験
⑥ 検査精度について、感度、特異度、陽性反応の中率、陰性反応の中率が計算できる	試験

成績評価基準

宮崎大学医学部履修細則による。
成績評価基準は、下記の標語と評点により、学習目標の到達度を評価し、秀、優、良、可を合格とし、不可は不合格とする。

秀：評点90～100点
優：評点80～89点
良：評点70～79点
可：評点60～69点
不可：評点0～59点

各授業科目の講義・実験・実習及び実技のそれぞれの時間数の3分の2以上出席しなければ、原則として試験の受験資格は認められません。

教材

科目担当の板谷のYouTubeチャンネルで授業の内容を扱った動画があります。
教科書は指定しません。参考資料を提示しますが、購入は任意です（授業開始後に購入を判断することをお勧めします）。
資料がある場合は電子媒体でLMS（WebclassまたはGoogle Classroom）に提示します。

教科書

ISBN	書名	著者	出版	価格

参考書

ISBN	書名	著者	出版	価格
9784525053444	楽しく学べる！ 看護学生のための疫学・保健統計	浅野 嘉延	南山堂	2750
9784263236864	事例問題から学ぶ看護疫学・保健統計学	安武繁	医歯薬出版	2860

参考URL

サイト名	URL
板谷智也 / Tomoya Itatani 看護, 保健を学ぶ人を全力で応援するチャンネル	https://www.youtube.com/@tomoyaitatani7275

参考資料**オフィスアワー**

いつでもどうぞ。
科目責任者（板谷）への事前連絡は不要です。随時対応します。
不在の場合がありますので、事前にアポイントメントを取ると確実です。
研究室：総合教育研究棟・4F・406号室
メール：tomoya_itatani@med.miyazaki-u.ac.jp

Any time available. However, it is better to make a reservation.

関連する授業科目

公衆衛生学
疫学演習
災害看護論
公衆衛生看護管理
公衆衛生看護管理演習

履修上の注意**授業への積極的な参加**

本授業は、講義だけでなく、グループワークやディスカッションを通じた学習を重視します。主体的に参加し、他者の意見を尊重しながら議論を深めることを心がけてください。

出席とリアクションペーパーの提出

出席はGoogle Classroomの出席確認ワードと電子リアクションペーパーの書き込みで確認をします。出席した場合は忘れずに書き込んでください。

試験の範囲と準備

試験は基礎的な内容が出題されます。看護師および保健師の国家試験レベルの内容です。

事前学習の重要性

本授業では反転授業を採用し、授業中はグループワークやディスカッションを重視します。そのため、基礎的な知識は事前に学修し、授業に臨んでください。指定された資料や動画を事前に確認していない場合、授業の内容を十分に理解できない可能性があります。

オンラインシステム（Google Classroom）の活用

授業資料の配布や連絡事項はGoogle Classroomを通じて行います。定期的に確認し、必要な情報を見落とさないようにしてください。

欠席の場合は規則に則り医療人育成課に連絡してください。科目責任者への連絡は基本的に不要です（連絡を要する場合は講義中にアナウンスします）。

この授業ではPCを使うことがありますので、その際は事前にアナウンスします。

また、講義室だけでなく実習室等を使用する場合がありますので、その場合は事前にアナウンスします。

開講年度	2025
講義コード	JB800
シラバスコード	JB800
講義名	疫学演習
講義分類	医学部 看護学科 保健師課程
担当教員	板谷 智也
授業形態	講義・演習
単位	2
対象学年	3年
開講日	前期 その他 その他
ナンバリングコード	B2042-WY*b-30040 分類: 医学部 看護学科 学問分野: NLM分類法 [WY] 看護学 レベル: 3:学部中級レベル（主に3年次生を対象とした科目） 使用言語: 日本語で行う授業
キーワード	NLM分類法 [WY] 看護学 実務経験のある教員による授業科目
授業形式	対面授業
連携開設科目	

授業概要

（授業目的）
この授業では、疫学と保健統計の実践的なスキルを身につけることを目指します。データ取得から分析、考察、そしてプレゼンテーションまでの一連のプロセスを実際に体験し、疫学的手法や保健統計の応用力を高めます。これにより、学生は地域の健康課題を的確に捉え、それを基にした効果的な介入策を立案するための基礎力を養います。

- （授業目標）
- ① 疫学調査における基礎的な概念や指標を理解し、適切に活用できる。
 - ② オープンデータやフィールドワークを活用して、地域の健康課題を明らかにし、疫学調査を計画・実行できる。
 - ③ QGISやRなどのツールを用いて、データの収集、分析、可視化ができる。
 - ④ グループで協働しながら、疫学的手法に基づいた資料を作成し、分かりやすく発表できる。
 - ⑤ 自分たちが行った調査結果をもとに、健康政策や介入策を提案する力を養う。

（授業の方法）*Google classroomも参照してください
本授業は、講義と演習を組み合わせた実践的な形式で進めます。
講義では疫学・保健統計の基本概念や手法を学び、演習ではQGISやRなどのツールを使用したデータ分析を行います。また、地域の健康課題をテーマとしたフィールドワークや疫学調査を実施し、その成果をグループでプレゼンテーションします。最終的には、授業で学んだことを活かして試験とレポートを通じて学びを総括します。

（評価方法）*Google classroomも参照してください
本授業の評価は、以下の配分でを行います。

グループワーク（40点）：第19, 20, 21回で実施するプレゼンテーションでのパフォーマンスを評価します。学生間相互評価です。*チームに配点

レポート（20点）：自由（疫学）研究の資料に個人の学修を加えて提出します。*個人に配点

試験（40点）：疫学および統計に関する知識を問います。またデータ解析も試験に含まれます。

指定規則に定める別表の種類とそれぞれの別表に定める教育内容のうち、当該科目で教授する教育内容
（2単位、45時間）

別表1：「公衆衛生看護活動展開論」「疫学」「保健統計学」

【実務経験を生かした授業内容】
本授業では地域で疫学調査を実施し、健康課題の分析や政策立案に携わってきた経験を持つ教員が指導します。オープンデータの活用やQGISを用いた地理的分析、Rによる統計解析といった実務に直結するスキルを、実際の事例を通じて学びます。また、教員の現場経験をもとに、フィールドワークで得られたデータの解釈や、プレゼンテーションの仕方を具体的に指導し、現場に直結する実践力を育てます。これにより、学生は単なる理論にとどまらず、現場の実情に即した実践的な疫学・保健統計の知識とスキルを身につけることを目指します。

育成する資質・能力（ディプロマ・ポリシーとの関連）

資質・能力	説明
課題発見・解決力	教育によって身に付けた看護学の知識や新たな知見を複眼的、論理的に分析するとともに、課題を認識し医療の進歩に貢献できる。

学習目標**身につける資質・能力**

- ① 疫学調査における基礎的な概念や指標を理解し、適切に活用できる。
- ② オープンデータやフィールドワークを活用して、地域の健康課題を明らかにし、疫学調査を計画・実行できる。
- ③ QGISやRなどのツールを用いて、データの収集、分析、可視化ができる。
- ④ グループで協働しながら、疫学的手法に基づいた資料を作成し、分かりやすく発表できる。
- ⑤ 自分たちが行った調査結果をもとに、健康政策や介入策を提案する力を養う。

授業計画

回数	日時	授業内容・方法	授業時間外の学修	備考
第1回	2025年04月14日(月) 5～6 時限	前半:疫学 & 保健統計、総復習 2年次の「疫学・保健統計」の内容復習し、これまで学んだ知識を整理します。 後半:パソコン操作の基礎 パソコン操作を重点的に練習し、ショートカットキーやファイル管理のスキルを向上させます。ブラインドタッチも（必ず）習得します。 * 3 コマ連続です (担当者) 板谷智也	疫学および保健統計に関する基礎的な知識を改めて確認し理解を深めてください。 パソコンの基本的な操作方法について、ネットで調べて操作手順を確認しておくとしスムーズに進められます。	フル充電したPCを持参してください。
第2回	2025年04月14日(月) 7～8 時限	* 第1 回を参照 (担当者) 板谷智也	* 第1 回を参照	* 第1 回を参照
第3回	2025年04月14日(月) 9～10 時限	* 第1 回を参照 (担当者) 板谷智也	* 第1 回を参照	* 第1 回を参照
第4回	2025年04月21日(月) 5～6 時限	前半:オープンデータに溺れよう♪ e-Statなどのオープンデータを取得し、必要なデータの選別とクリーニングを行います。 後半:R言語を使ってみよう♪ プログラミング言語のRを使って基礎的な統計解析手法を学びます。また、ggplot等を使ってグラフィカルな作図にも挑戦します。 * 3 コマ連続です (担当者) 板谷智也	e-Statや他のオープンデータポータルにアクセスし、適切なデータを選定する手順を確認してください。 Rの基本的な操作について、配布資料や公式ドキュメントを参照し、簡単な例題を試しながら理解を深めてください。とは思いますが、相当難しいと思います♪	とにかく頭が疲れる回です。リラックスできるアイテムを持参してください。
第5回	2025年04月21日(月) 7～8 時限	* 第4 回を参照 (担当者) 板谷智也	* 第4 回を参照	* 第4 回を参照
第6回	2025年04月21日(月) 9～10 時限	* 第4 回を参照 (担当者) 板谷智也	* 第4 回を参照	* 第4 回を参照
第7回	2025年04月28日(月) 5～6 時限	空間疫学に挑戦！ QGISを活用して空間疫学の基礎を学びます。ハザードマップや緊急避難場所の情報を調査し、地理情報を視覚的に把握する方法を習得します。 * 3 コマ連続です (担当者) 板谷智也	QGISの操作方法に関するガイドやチュートリアルを用いて、簡単な地図作成やデータのインポート手順を学んでください。とは思いますが、極めて難解だと思えます♪ ハザードマップを活用し、避難場所やリスクエリアについて事前に理解を深めておくこと、講義での進行がスムーズになります。	前週に引き続き、とにかく頭が疲れる回です。リラックスできるアイテムを持参してください。
第8回	2025年04月28日(月) 7～8 時限	* 第7 回を参照 (担当者) 板谷智也	* 第7 回を参照	* 第7 回を参照
第9回	2025年04月28日(月) 9～10 時限	* 第7 回を参照 (担当者) 板谷智也	* 第7 回を参照	* 第7 回を参照
第10回	2025年05月12日(月) 5～6 時限	フィールドワーク 空間疫学の結果を実地で確認するため、フィールドワークを行います。緊急避難場所を訪問し、実際の状況を観察して地図情報の精度を検証します。 * 3 コマ連続です (担当者) 板谷智也	フィールドワークで訪れる予定の避難場所について、地図や現地情報を確認し、事前に訪問先の状況をイメージしてみてください。 前回のQGIS演習内容を復習し、得られたデータの視覚化手順を整理しておくことで、現地での活動がより実践的になります。	野外活動となりますので、動きやすい服装で参加してください。
第11回	2025年05月12日(月) 7～8 時限	* 第10 回を参照 (担当者) 板谷智也	* 第10 回を参照	* 第10 回を参照
第12回	2025年05月12日(月) 9～10 時限	* 第10 回を参照 (担当者) 板谷智也	* 第10 回を参照	* 第10 回を参照
第13回	2025年05月19日(月) 5～6 時限	実践疫学調査！ 宮崎市の様々な場所で飛行機騒音を調査します。測定した騒音データを比較し、地域による騒音環境の違いを分析します。 * 3 コマ連続です (担当者) 板谷智也	騒音測定アプリの取り扱い方法や、測定に適した環境条件を事前に調査しておくこと、実際の作業が円滑に進められます。 測定データを比較するための基礎的な表やグラフの作成方法を学び、分析準備を整えてください。	騒音測定アプリを事前にインストールしておいてください。
第14回	2025年05月19日(月) 7～8 時限	* 第13 回を参照 (担当者) 板谷智也	* 第13 回を参照	* 第13 回を参照
第15回	2025年05月19日(月) 9～10 時限	* 第13 回を参照 (担当者) 板谷智也	* 第13 回を参照	* 第13 回を参照
第16回	2025年05月26日(月) 5～6 時限	前半:自由(疫学)研究♪ 各グループが独自のテーマを設定し、それに基づいた疫学調査を実施します。 後半:分析 & 資料作成 取得したデータを整理して分析し、わかりやすい資料にまとめます。 * 3 コマ連続です (担当者) 板谷智也	各グループでテーマ設定に必要な情報を事前に収集し、議論を進めてください。 疫学調査で得られたデータを効果的に整理・分析する方法を学び、資料作成の基盤を整えておいてください。	資料とプレゼンは成績に直結します。
第17回	2025年05月26日(月) 7～8 時限	* 第16 回を参照 (担当者) 板谷智也	* 第16 回を参照	* 第16 回を参照
第18回	2025年05月26日(月) 9～10 時限	* 第16 回を参照 (担当者) 板谷智也	* 第16 回を参照	* 第16 回を参照

回数	日時	授業内容・方法	授業時間外の学修	備考
第19回	2025年06月02日(月) 5～6 時限	前半:プレゼン資料準備 前回の資料をもとにプレゼンテーション用スライドを作成します。 後半:自由（疫学）研究発表会！ 各グループが疫学調査の結果を発表し、学んだことを共有します。 ＊3コマ連続です （担当者）板谷智也	発表用スライドに必要な内容や視覚資料を事前に整理し、発表に向けた準備を整えてください。 グループ内で役割分担を明確にし、発表内容を繰り返し確認することで、より効果的なプレゼンテーションを目指してください。	資料とプレゼンは成績に直結します。
第20回	2025年06月02日(月) 7～8 時限	＊第19回を参照 （担当者）板谷智也	＊第19回を参照	＊第19回を参照
第21回	2025年06月02日(月) 9～10 時限	＊第19回を参照 （担当者）板谷智也	＊第19回を参照	＊第19回を参照
第22回	2025年06月09日(月) 5～6 時限	前半: 総まとめ 復習を行い、試験に向け理解度を確認します。 後半:理解度確認PCテスト！ 授業内容を総括する試験を実施します。実施後は振り返りを行います ＊2コマ連続です （担当者）板谷智也	講義で扱った資料を復習し、重要なポイントを再確認してください。 試験に向けて予想問題を解いてみるなど、学んだ内容の総復習を行い、理解を深めてください。	フル充電したPCを持参してください。
第23回	2025年06月09日(月) 7～8 時限	＊22回を参照 （担当者）板谷智也	＊22回を参照	＊22回を参照

成績評価方法

学習目標（到達目標）	評価手段
① 疫学調査における基礎的な概念や指標を理解し、適切に活用できる。	グループワーク レポート 試験
② オープンデータやフィールドワークを活用して、地域の健康課題を明らかにし、疫学調査を計画・実行できる。	グループワーク レポート 試験
③ QGISやRなどのツールを用いて、データの収集、分析、可視化ができる。	グループワーク レポート 試験
④ グループで協働しながら、疫学的手法に基づいた資料を作成し、分かりやすく発表できる。	グループワーク レポート 試験
⑤ 自分たちが行った調査結果をもとに、健康政策や介入策を提案する力を養う。	グループワーク レポート 試験

成績評価基準

宮崎大学医学部履修細則による。
成績評価基準は、下記の標語と評点により、学習目標の到達度を評価し、秀、優、良、可を合格とし、不可は不合格とする。

秀：評点90～100点
優：評点80～89点
良：評点70～79点
可：評点60～69点
不可：評点0～59点

各授業科目の講義・実験・実習及び実技のそれぞれの時間数の3分の2以上出席しなければ、原則として試験の受験資格は認められません。

教材

科目担当の板谷のYouTubeチャンネルで授業の内容を扱った動画があります。
教科書は指定しません。参考資料を提示しますが、購入は任意です（授業開始後に購入を判断することをお勧めします）。
資料がある場合は電子媒体でLMS（WebclassまたはGoogle Classroom）に提示します。

教科書

ISBN	書名	著者	出版	価格

参考書				
ISBN	書名	著者	出版	価格
9784274067105	Rによるやさしい統計学	山田, 剛史, 1970- 杉澤, 武俊, 村井, 潤一郎, 1971-	オーム社	2700
978-4-524-26086-7	はじめて学ぶやさしい疫学: 疫学への招待	田中, 平三, 1940- 秋葉, 澄伯, 日本疫学会	南江堂	2000

参考URL	
サイト名	URL
板谷智也 / Tomoya Itatani 看護, 保健を学ぶ人を全力で応援するチャンネル	https://www.youtube.com/@tomoyaitatani7275

参考資料

オフィスアワー
<p>いつでもどうぞ。</p> <p>科目責任者（板谷）への事前連絡は不要です。随時対応します。</p> <p>不在の場合がありますので、事前にアポイントメントを取ると確実です。</p> <p>研究室：総合教育研究棟・4F・406号室</p> <p>メール：tomoya_itatani@med.miyazaki-u.ac.jp</p> <p>Any time available. However, it is better to make a reservation.</p>

関連する授業科目
<p>公衆衛生学</p> <p>公衆衛生看護管理</p> <p>公衆衛生看護管理演習</p> <p>疫学・保健統計</p> <p>災害看護論</p>

履修上の注意
<p>保健師課程専攻の学生のみ履修できますが、聴講したい場合は科目責任者にご相談ください。</p> <p>試験の範囲と準備</p> <p>試験は実践的な内容が出題されます。PCの操作もあるので難易度は高いです。</p> <p>事前事後の学修の重要性</p> <p>PCを使った解析の難易度は高いです。反復練習しなければ習得は難しいです。</p> <p>オンラインシステム（Google Classroom）の活用</p> <p>授業資料の配布や連絡事項はGoogle Classroomを通じて行います。定期的に確認し、必要な情報を見落とさないようにしてください。</p> <p>欠席の場合は規則に則り医療人育成課に連絡してください。科目責任者への連絡は基本的に不要です（連絡を要する場合は講義中にアナウンスします）。</p> <p>この授業では基本的にPCを使います。</p>

開講年度	2025
講義コード	AA020
シラバスコード	AA020
講義名	農学・獣医学DX入門
講義分類	農学部 農学科 学部共通科目
担当教員	安在 弘樹／引間 順一／関口 敏／光田 靖／榊原 陽一／狩野 秀之／多炭 雅博／中園 健文／田中 竜介／木下 統／林 雅弘／槐島 芳徳
授業形態	講義
単位	2
対象学年	1年
開講日	前期 月曜日 3・4時限
ナンバリングコード	
キーワード	デジタルトランスフォーメーション、スマート農業
授業形式	対面授業
連携開設科目	

授業概要
<p>デジタルトランスフォーメーション（DX）は農林水産業の分野でも注目され、諸問題を解決する手法としてDXが推進されている。スマート農業をはじめ、ロボットおよびICT等の革新的DX技術を活用する取組みも盛んに実施されている。本講義では、この農林水産業におけるDXの最新の取組みを農学全分野から紹介し、スマートアグリ等におけるDXの未来を創造させることを目的とする。また講義の一部では、国際機関や農業生産現場での勤務経験を持つ講師が、実務経験で得た業務内容を適宜活用しながら、農業水資源管理の中で情報技術が世界でどのように活用されているかを解説する。</p> <p>・授業形態：講義</p>

育成する資質・能力（ディプロマ・ポリシーとの関連）	
資質・能力	説明
データ運用力	数理・データサイエンス・AIに関する応用基礎レベルのデータ運用ができる

学習目標
身につける資質・能力
<p>本科目では、農学全般に関するICTやセンシング技術とそこから得られる数値情報の処理方法を身に付ける「情報リテラシー」に関する能力を習得する。これより、「農学」に関する基礎知識を涵養する。</p>

授業計画				
回数	日時	授業内容・方法	授業時間外の学修	備考
第1回	2025年04月14日(月)	オリエンテーション、 食品分析における質量分析の可能性（榊原）	講義の最後にミニテストまたはレポートが課されます。指定の日時までに必ず提出して下さい。	対面講義 農学部講義棟L204
第2回	2025年04月21日(月)	機械とアプリとスマートアグリ（梶島）	講義の最後にミニテストまたはレポートが課されます。指定の日時までに必ず提出して下さい。	対面講義 農学部講義棟L204
第3回	2025年04月28日(月)	農作業の軽労化・自動化（木下）	講義の最後にミニテストまたはレポートが課されます。指定の日時までに必ず提出して下さい。	対面講義 農学部講義棟L204
第4回	2025年05月12日(月)	農業土木におけるスマートアグリ（中園）	講義の最後にミニテストまたはレポートが課されます。指定の日時までに必ず提出して下さい。	オンライン講義
第5回	2025年05月19日(月)	微生物バイオとスマートアグリ（林）	講義の最後にミニテストまたはレポートが課されます。指定の日時までに必ず提出して下さい。	オンライン講義
第6回	2025年05月26日(月)	水産物の流通・加工・品質におけるスマートアグリ（田中）	講義の最後にミニテストまたはレポートが課されます。指定の日時までに必ず提出して下さい。	対面講義 教育学部講義棟L111
第7回	2025年06月02日(月)	分析技術で「食」に貢献、一般社団法人食の安全分析センターの役割（食の安全分析センター）	講義の最後にミニテストまたはレポートが課されます。指定の日時までに必ず提出して下さい。	対面講義 教育学部講義棟L111
第8回	2025年06月09日(月)	人工衛星モニタリングによる自然環境の把握と管理（多炭）	講義の最後にミニテストまたはレポートが課されます。指定の日時までに必ず提出して下さい。	対面講義 教育学部講義棟L111 可能であればパソコンを持ってくる。
第9回	2025年06月16日(月)	光を用いた近未来型食品成分分析（引間）	講義の最後にミニテストまたはレポートが課されます。指定の日時までに必ず提出して下さい。	オンライン講義
第10回	2025年06月23日(月)	JAみやぎの取り組みについて（JAみやぎ）	講義の最後にミニテストまたはレポートが課されます。指定の日時までに必ず提出して下さい。	対面講義 教育学部講義棟L111
第11回	2025年06月30日(月)	放牧における草地と家畜のモニタリング（安在）	講義の最後にミニテストまたはレポートが課されます。指定の日時までに必ず提出して下さい。	対面講義 教育学部講義棟L111
第12回	2025年07月07日(月)	産学連携で学ぶ、ゼネラリストの思考と実践（デンサン）	講義の最後にミニテストまたはレポートが課されます。指定の日時までに必ず提出して下さい。	対面講義 教育学部講義棟L111
第13回	2025年07月14日(月)	ICTを活用したスマート林業（光田）	講義の最後にミニテストまたはレポートが課されます。指定の日時までに必ず提出して下さい。	オンライン講義
第14回	2025年07月23日(水)	農業経営におけるスマートアグリ（狩野）	講義の最後にミニテストまたはレポートが課されます。指定の日時までに必ず提出して下さい。	オンライン講義
第15回	2025年07月28日(月)	動物感染症の制御（関口）	講義の最後にミニテストまたはレポートが課されます。指定の日時までに必ず提出して下さい。	対面講義 教育学部講義棟L111
第16回	2025年08月04日(月)	予備日	補講を実施する教員からの連絡に注意して下さい。	期末試験は実施しません。

成績評価方法	
学習目標（到達目標）	評価手段
本科目では、農学全般に関するICTやセンシング技術とそこから得られる数値情報の処理方法を身に付ける「情報リテラシー」に関する能力を習得する。これより、「農学」に関する基礎知識を涵養する。	ミニテストまたはレポートで評価します

成績評価基準

標準成績評価基準は、下記の標語と評点により、学習目標の到達度を評価し、秀、優、良、可を合格とし、不可は不合格とする。

秀：評点 90 点以上（到達目標を特に優秀な水準で達成している）

優：評点 80～89 点（到達目標を優秀な水準で達成している）

良：評点 70～79 点（到達目標を良好に達成している）

可：評点 60～69 点（到達目標の必要最低限は達成している）

不可：評点 60 点未満（到達目標の必要最低限を達成していない）

教材

適宜資料を配布する。

教科書

ISBN	書名	著者	出版	価格
使用しない				

参考書

ISBN	書名	著者	出版	価格
使用しない				

参考URL

サイト名	URL

参考資料**オフィスアワー**

榊原陽一：水曜日昼食時間

関連する授業科目

学部共通科目

履修上の注意

本講義では、講義の内容上、期末試験や再試験が実施できません。

このため本講義の評価は、各回の講義の最後に実施される小テストやレポートの合計点で決まります。欠席するとその回の小テストやレポート点が「0点」になるため、3回の欠席は「不可」になる可能性があります。

なお本講義では、1時間の授業につき2時間程度の授業外学修が必要です。

新型コロナウイルスの影響により、やむを得ず、授業の実施方法（試験を実施する科目は、試験方法、日時等も該当）等を変更する可能性がありますので、注意してください。

授業概要 目的 ICTによるデータの収集と分析の効率化の実際について学習し、研究の基礎体力となるデータの分析を効率的に行う能力を修得する。
概要 コンピュータプログラミングとその周辺知識について講義しつつ、専門に応じた実際のデータを使用して身近な分析を実習する。
実社会における各々の専門に応じた課題に対して情報技術やデータマイニングによる支援を得て解決案を提示する。

授業の目標

農学・獣医学研究におけるデータサイエンスの重要性を理解する。
ICT機器によるデータ収集の手法について理解する。
簡単なプログラミング能力を修得し、能動的にデータを分析し問題を解決する能力を身につける。

授業の内容

	内容, キーワード	担当者 (敬称略)
1 pythonのインストールと序論	ファイル構造, Pythonのインストール, 標準入出力	西木
2 データ構造とデータ演算	データ構造 (変数型), ビットとバイト, 文字コードの復習	西木
3 条件制御とデータの読み書き	繰り返しと条件制御, ファイル入出力	西木
4 データ分析 1	統計学基礎の内容の実習 (代表値, 回帰, 分布)	霧村
5 データ分析 2	統計学基礎の内容の実習 (推定, 相関)	霧村
6 データ分析 3	統計学基礎の内容の実習 (検定)	霧村
7 データ分析 4	統計学基礎の内容の実習 (多変量解析)	関口
8 データ分析 5	クレンジング, 外れ値, ダミー変数	関口
9 データ分析 6	クラスター分析, 数量化	関口
10 機械学習	AIの基礎	田中
11 画像解析 1	教師あり分類の説明と画像解析	田中
12 画像解析 2	教師なし分類の説明と画像解析	田中
13 AIによるさまざまな分析の実践例	文章比較, テキストマイニング, 決定木, シミュレーション	櫻井
14 実課題の解決1	課題の提示と選択	櫻井
15 実課題の解決2	課題の分析とデータサイエンスの各種技法による解決案の作成	櫻井
16 実課題の解決3	解決案の共有とグループ相互評価 (試験)	櫻井

応用基礎レベル修了要件（学部別）

※Aパターン・Bパターンのどちらの修了要件でも「応用基礎レベル」に認定となります。

教育学部	Aパターン（4科目）	Bパターン（3科目）
	①必修科目 データサイエンス入門	①必修科目 データサイエンス入門
	②プログラミング系科目群（いずれか1科目） データサイエンス応用 データサイエンス応用基礎-プログラミング-	②プログラミング系科目群（いずれか1科目） データサイエンス応用 データサイエンス応用基礎-プログラミング-
	③統計学科目群（いずれか1科目） 確率・統計学Ⅰ 教育統計法	③統計学科目群 ④データサイエンス・AI実践科目群 データサイエンス応用基礎-PBL-
	④データサイエンス・AI実践科目群（いずれか1科目） データサイエンス分析実践 統計データによる地域課題分析 ※R7年度休講	※データサイエンス応用基礎-PBL-は③と④の両方を満たす科目です。

医学部（医学科）	Aパターン（3科目）	※医学部(医学科)はAパターンのみとなります。
	①必修科目 データサイエンス入門	
	②プログラミング系科目群（いずれか1科目） データサイエンス応用 データサイエンス応用基礎-プログラミング-	
	③統計学科目群 ④データサイエンス・AI実践科目群 データサイエンス応用基礎-PBL-	
	※データサイエンス応用基礎-PBL-は③と④の両方を満たす科目です。	

医学部（看護学科）	Aパターン（4科目）	Bパターン（3科目）
	①必修科目 データサイエンス入門N	①必修科目 データサイエンス入門N
	②プログラミング系科目群（いずれか1科目） データサイエンス応用 データサイエンス応用基礎-プログラミング-	②プログラミング系科目群（いずれか1科目） データサイエンス応用 データサイエンス応用基礎-プログラミング-
	③統計学科目群 疫学・保健統計	③統計学科目群 ④データサイエンス・AI実践科目群 データサイエンス応用基礎-PBL-
	④データサイエンス・AI実践科目群（いずれか1科目） 疫学演習 データサイエンス分析実践 統計データによる地域課題分析 ※R7年度休講	※データサイエンス応用基礎-PBL-は③と④の両方を満たす科目です。

工学部	Aパターン（3科目）	※工学部はAパターンのみとなります。
	①必修科目 数理情報Ⅰ 数理情報Ⅱ プロジェクト演習	

農学部 (令和6年度入学生まで)	Aパターン（4科目）	Bパターン（3科目）
	①必修科目 データサイエンス入門	①必修科目 データサイエンス入門
	②プログラミング系科目群（いずれか1科目） データサイエンス応用	②プログラミング系科目群（いずれか1科目） データサイエンス応用
	データサイエンス応用基礎-プログラミング-	データサイエンス応用基礎-プログラミング-
	③統計学科目群 統計学基礎	③統計学科目群 ④データサイエンス・AI実践科目群 データサイエンス応用基礎-PBL-
	④データサイエンス・AI実践科目群（いずれか1科目） 植物生産データエンジニアリング 森林計画学実習 食品機能化学実験 生物機能科学実験 データサイエンス分析実践 統計データによる地域課題分析 ※R7年度休講	※データサイエンス応用基礎-PBL-は③と④の両方を満たす科目です。

(令和7年度入学生)農学部	Aパターン（3科目）	※農学部(令和7年度入学生)はAパターンのみとなります。
	①必修科目 データサイエンス入門	
	農学・獣医学DX入門 農学・獣医学データサイエンス演習	

地域資源創成学部	Aパターン（4科目）	Bパターン（3科目）
	①必修科目 データサイエンス入門	①必修科目 データサイエンス入門
	②プログラミング系科目群（いずれか1科目） データサイエンス応用	②プログラミング系科目群（いずれか1科目） データサイエンス応用
	データサイエンス応用基礎-プログラミング-	データサイエンス応用基礎-プログラミング-
	③統計学科目群 統計学基礎R	③統計学科目群 ④データサイエンス・AI実践科目群 データサイエンス応用基礎-PBL-
	④データサイエンス・AI実践科目群（いずれか1科目） 次世代技術と産業 データサイエンス分析実践 統計データによる地域課題分析 ※R7年度休講	※データサイエンス応用基礎-PBL-は③と④の両方を満たす科目です。

（宮崎大学データサイエンス・AI教育プログラム（応用基礎）科目一覧）

①必修科目		
教養	データサイエンス入門	全学 2単位：教養必修 1年後期
教養	データサイエンス入門N	医学部看護学科 2単位：教養必修 1年後期
専門	数理情報Ⅰ	工学部 2単位：専門 1年前期
専門	数理情報Ⅱ	工学部 2単位：専門 1年後期
専門	プロジェクト演習	工学部 1単位：専門 3年前期
専門	農学・獣医学DX入門	農学部 2単位：専門 1年前期
専門	農学・獣医学データサイエンス演習	農学部 2単位：専門 3年前期
②プログラミング系科目群		
教養	データサイエンス応用	全学 1単位：教養 2年第2期
教養	データサイエンス応用基礎-プログラミング-	全学 1単位：教養 1年後期集中
③統計学科目群		
専門	確率・統計学Ⅰ	教育学部 2単位：専門 2年前期
専門	教育統計法	教育学部 2単位：専門 2年後期
専門	疫学・保健統計	医学部看護学科 1単位：専門 2年後期
教養	統計学基礎	農学部 2単位：教養必修 1年前期
教養	統計学基礎R	地域資源創成学部 2単位：教養必修 1年第3期
④データサイエンス・AI実践科目群		
教養	データサイエンス分析実践	全学 1単位：教養 前期集中
教養	統計データによる地域課題分析 ※R7年度休講	全学 1単位：教養
教養	データサイエンス応用基礎-PBL- ※データサイエンス応用基礎-PBL-は③と④の両方を満たす科目です。	全学 1単位：教養 1年後期集中
専門	疫学演習	医学部看護学科 2単位：専門 3年前期
専門	植物生産データエンジニアリング	農学部 1単位：専門 2年後期
専門	森林計画学実習	農学部 1単位：専門 3年後期
専門	食品機能化学実験	農学部 1単位：専門 3年後期
専門	生物機能科学実験	農学部 1単位：専門 3年後期
専門	次世代技術と産業	地域資源創成学部 2単位：専門 4年前期

教養教育

教養教育の目標と内容

本学では、知識・技能を総合的に活用して、自ら発見した課題に適用し、解決する創造的思考力や態度を育成することを目指し、この目標を達成するために下記の教養教育科目を設けています。

1. 教養教育の構成

教養教育は、「導入科目」、「課題発見科目」、「未来共創科目」の3つの区分に分かれ、教員と学生の双方向型の授業を取り入れています。

(1) 導入科目

導入科目は「大学教育入門セミナー」、「情報・データリテラシー（情報倫理を含む）」、「英語（外国語コミュニケーションを含む）」、「専門接続系」の4つの区分で構成し、大学で学ぶための心構えや自己の所属する教育課程の理解、高度情報化時代に対応できる情報処理能力、外国語コミュニケーション能力と専門教育において必要とされる英語運用能力、及び専門教育において必要とされる知識・技能を学修します。

(2) 課題発見科目

課題発見科目は「データサイエンス系」、「人文・社会・芸術系」、「自然・生命・技術系」、「地域・国際・学際系」で構成され、情報科学、人文科学、自然科学、及び学際的な分野の知識を理解し、現代社会が抱える諸課題を主体的に探究し、俯瞰的に捉える思考力を身に付けます。

(3) 未来共創科目

未来共創科目は「構想・デザイン系」と「協働・創造系」で構成され、地域をフィールドとした学びを通じて、能動的に社会の課題に向き合い、長期的視点で未来を展望する力と、多様な他者と協働・共創し社会の発展のために関与する力を学修します。

※ SPARC未来共創教育プログラムについて

宮崎大学は、新しい価値を創造し、持続可能な地域づくりを牽引する「未来共創人材」を育成するため、南九州大学、宮崎国際大学、宮崎学園短期大学の連携大学と協働し、文理横断型の「宮崎大学SPARC学位プログラム」を構築しました。SPARC未来共創教育プログラムでは、文理横断を実現する新カリキュラムにおいて、教養教育として、導入科目、課題発見科目、未来共創科目を通じて「STEAM教育」を学びます。また、未来共創科目では、宮崎という地域をフィールドに、地域学・アントレプレナーシップ（起業家精神）教育・PBL（問題解決型授業）を通じて、地域とともにプロジェクトをデザインし、マネジメントする力を身につけます。

SPARC未来共創教育プログラムの対象学生は以下のとおりです。

教 育 学 部	：	教職実践基礎コース
医 学 部	：	看護学科全学科生
工 学 部	：	学校推薦型選抜宮崎県就職希望枠入試合格者
農 学 部	：	選抜者（入学後選抜）
地域資源創成学部	：	全学部生



（次頁以降の教養教育科目一覧表等において、★がSPARC未来共創教育プログラムの対象学生となります。）

※ データサイエンス・AI教育について

「地域のニーズに応える人材育成・研究」を推進する大学として、ビッグデータを利活用できる数理的思考力を身に付けた地域産業人材の育成を目標とし、宮崎大学データサイエンス・AI教育プログラムを実施しています。全学部学生を対象としたリテラシーレベルと応用基礎レベルの教育プログラムを提供します。本プログラムは、文部科学省「数理・データサイエンス・AI教育プログラム認定制度（MDASH）リテラシーレベルプラス及び応用基礎レベルプラス」の認定を受けています。プログラムの詳細は、「宮崎大学データサイエンス・AI教育プログラム」ホームページ（<https://www.miyazaki-u.ac.jp/miyazaki-mds/educationprogram/>）を参照してください。



2. 修得すべき単位数

卒業するために最低限必要な教養教育科目の単位数は、次のとおりです。

●教養教育科目一覧表

★はSPARC未来共創教育プログラムの対象学生となります。

区 分		科目群		配当 年次	単 位 数									
					教育学部		医学部		工学部		農学部		地域資源創成 学部	
					教職実践 基礎コース ★	左記以外 のコース	医学科	看護学科 ★		★		★		
教 養 教 育 科 目	導 入 科 目	大学教育入門セミナー		Ⅰ 前	2	2	2	2	2	2	2	2		
		情報・データリテラシー （情報倫理を含む）		Ⅰ 前	2	2	2	2	2	2	2	2		
		英語 （外国語コミュニケーション を含む）	コミュニケーション	Ⅰ 前・後	4	4	4	4	4	4	4	4		
			ESP	Ⅰ～2	2	2	8	6	4	4	4	4		
		専門接続系		Ⅰ～2	10	10	9	6	4	4	4	4	8	
		小 計			20	20	25	20	16	16	16	16	20	
	課 題 発 見 科 目	データサイエンス系		Ⅰ後～4	2	2	2	2	2	2	2	2	2	
		人文・社会・芸術系		Ⅰ後～4	2	2	2	2	2	2	2	2	2	
		自然・生命・技術系		Ⅰ後～4	2	2	2	2	2	2	2	2	2	
		地域・国際・学際系		Ⅰ後～4	2	2	2	－	2	2	2	2	2	
		上記4つの系から任意で選択		Ⅰ後～4	2	6	－	－	10	4	10	4	4	
		小 計			10	14	8	6	18	12	18	12	12	
	目	未 来 共 創 科 目	構想・デザイン系 （キャリアを含む）	低年次	Ⅰ～2	2	2	2	4	2	2	2	2	2
				高年次	3～4	2	－	－	－	－	2	－	2	2
			協働・創造系	低年次	Ⅰ～2	2	－	－	（2）	－	2	－	2	（2）
				高年次	3～4	（2）	－	－	（2）	－	2	－	2	（2）
			小 計			（2） 6	2	2	（4） 4	2	8	2	8	（4） 4
	単 位 数 合 計					（2） 36	36	35	（4） 30	36	36	36	36	（4） 36

() 内は学部専門教育科目で外数。所属学部の履修指導に従ってください。

令和7年度 教養教育科目一覧（後学期・第3期・第4期）

（令和7年度（2025年度）1年生用）

令和7年8月26日現在

- 注1) 授業の形態や講義室の定員等の関係上、受講人数を制限するため抽選を行うことがあります。ご了承ください。
- 注2) 開講する科目が変更になる場合がありますので、HPや掲示版の確認を随時おこなってください。
- 注3) 講義名の括弧書きの数字は、クラスを意味します。
- 注4) 「導入科目」は、すべて必修科目です。必ず単位を修得すること。
- 注5) 「課題発見科目」のデータサイエンス系は「データサイエンス入門（医学部看護学科は「データサイエンス入門N」）」を必ず履修してください。
また、自然・生命・技術系は、「環境と生命」を医学部学生は1年次の前学期に、医学部以外の学生は2年次の前学期に必ず履修してください。
「データサイエンス入門」および「環境と生命」以外の課題発見科目の履修年次は、所属学部での履修指導に従ってください。
- 注6) 「未来共創科目」は、履修対象学部等が科目によって異なるので留意してください。
- 注7) 履修年次が「1年次後学期～」の科目について、所属学部から履修年次の指定がある場合は指示に従うこと。

導入科目

講義コード	履修対象学部等	履修年次	科目群		講義名	単位	主担当教員	開講学期	曜日	時限	キャンパス	備考
ksl11	教育学部	1年次	英語（外国語コミュニケーションを含む）	コミュニケーション	英語Ec2(1)	2	井崎 浩	後期	火曜日	5・6時限	木花	
ksl12	教育学部	1年次	英語（外国語コミュニケーションを含む）	コミュニケーション	英語Ec2(2)	2	本多 正敏	後期	火曜日	5・6時限	木花	
ksl13	教育学部	1年次	英語（外国語コミュニケーションを含む）	コミュニケーション	英語Ec2(3)	2	新名 桂子	後期	火曜日	5・6時限	木花	
ksl14	教育学部	1年次	英語（外国語コミュニケーションを含む）	コミュニケーション	英語Ec2(4)	2	早瀬 沙織	後期	火曜日	5・6時限	木花	
ksl31	医学部医学科	1年次	英語（外国語コミュニケーションを含む）	コミュニケーション	英語Ma2(1)	2	南部 みゆき	後期	水曜日	3・4時限	清武	クラスは、所属学部の指示に従ってください
ksl32	医学部医学科	1年次	英語（外国語コミュニケーションを含む）	コミュニケーション	英語Ma2(2)	2	南部 みゆき	後期	月曜日	3・4時限	清武	クラスは、所属学部の指示に従ってください
ksl33	医学部医学科	1年次	英語（外国語コミュニケーションを含む）	コミュニケーション	英語Ma2(3)	2	横山 彰三	後期	水曜日	1・2時限	清武	クラスは、所属学部の指示に従ってください
ksl34	医学部医学科	1年次	英語（外国語コミュニケーションを含む）	コミュニケーション	英語Ma2(4)	2	横山 彰三	後期	水曜日	3・4時限	清武	クラスは、所属学部の指示に従ってください
ksl71	工学部	1年次	英語（外国語コミュニケーションを含む）	コミュニケーション	英語Tc2(1)	2	SCHAUERTE EDWARD MICHAEL	後期	木曜日	5・6時限	木花	
ksl72	工学部	1年次	英語（外国語コミュニケーションを含む）	コミュニケーション	英語Tc2(2)	2	TAIKATO STEVEN PURI	後期	木曜日	5・6時限	木花	
ksl73	工学部	1年次	英語（外国語コミュニケーションを含む）	コミュニケーション	英語Tc2(3)	2	市園 なお子	後期	木曜日	5・6時限	木花	
ksl74	工学部	1年次	英語（外国語コミュニケーションを含む）	コミュニケーション	英語Tc2(4)	2	前 恵子	後期	木曜日	7・8時限	木花	
ksl75	工学部	1年次	英語（外国語コミュニケーションを含む）	コミュニケーション	英語Tc2(5)	2	HOMBU AMY	後期	木曜日	5・6時限	木花	
ksl76	工学部	1年次	英語（外国語コミュニケーションを含む）	コミュニケーション	英語Tc2(6)	2	コリーン 横山	後期	木曜日	7・8時限	木花	
ksl77	工学部	1年次	英語（外国語コミュニケーションを含む）	コミュニケーション	英語Tc2(7)	2	SCHAUERTE EDWARD MICHAEL	後期	木曜日	7・8時限	木花	
ksl78	工学部	1年次	英語（外国語コミュニケーションを含む）	コミュニケーション	英語Tc2(8)	2	市園 なお子	後期	木曜日	7・8時限	木花	
ksl79	工学部	1年次	英語（外国語コミュニケーションを含む）	コミュニケーション	英語Tc2(9)	2	前 恵子	後期	木曜日	5・6時限	木花	
ksl91	農学部	1年次	英語（外国語コミュニケーションを含む）	コミュニケーション	英語Ac2(1)	2	SCHAUERTE EDWARD MICHAEL	後期	火曜日	1・2時限	木花	
ksl92	農学部	1年次	英語（外国語コミュニケーションを含む）	コミュニケーション	英語Ac2(2)	2	市園 なお子	後期	火曜日	3・4時限	木花	
ksl93	農学部	1年次	英語（外国語コミュニケーションを含む）	コミュニケーション	英語Ac2(3)	2	HOMBU AMY	後期	火曜日	3・4時限	木花	
ksl94	農学部	1年次	英語（外国語コミュニケーションを含む）	コミュニケーション	英語Ac2(4)	2	前 恵子	後期	火曜日	1・2時限	木花	
ksl95	農学部	1年次	英語（外国語コミュニケーションを含む）	コミュニケーション	英語Ac2(5)	2	TAIKATO STEVEN PURI	後期	火曜日	3・4時限	木花	
ksl96	農学部	1年次	英語（外国語コミュニケーションを含む）	コミュニケーション	英語Ac2(6)	2	COATES DANIEL SINCLAIR	後期	火曜日	1・2時限	木花	
ksl97	農学部	1年次	英語（外国語コミュニケーションを含む）	コミュニケーション	英語Ac2(7)	2	前 恵子	後期	火曜日	3・4時限	木花	
kslb1	地域資源創成学部	1年次	英語（外国語コミュニケーションを含む）	コミュニケーション	英語Rc2(1)	2	前 恵子	後期	月曜日	3・4時限	木花	
kslb2	地域資源創成学部	1年次	英語（外国語コミュニケーションを含む）	コミュニケーション	英語Rc2(2)	2	HOMBU AMY	後期	月曜日	3・4時限	木花	
kslb3	地域資源創成学部	1年次	英語（外国語コミュニケーションを含む）	コミュニケーション	英語Rc2(3)	2	SCHAUERTE EDWARD MICHAEL	後期	月曜日	3・4時限	木花	
kslg1	医学部医学科	1年次	英語（外国語コミュニケーションを含む）	ESP	コミュニケーション英語Mc2(1)	2	平井 悠	後期	月曜日	3・4時限	清武	クラスは、所属学部の指示に従ってください
kslg2	医学部医学科	1年次	英語（外国語コミュニケーションを含む）	ESP	コミュニケーション英語Mc2(2)	2	平井 悠	後期	水曜日	1・2時限	清武	クラスは、所属学部の指示に従ってください
kslg3	医学部医学科	1年次	英語（外国語コミュニケーションを含む）	ESP	コミュニケーション英語Mc2(3)	2	SIMPSON ALAN MARK	後期	水曜日	3・4時限	清武	クラスは、所属学部の指示に従ってください
kslg4	医学部医学科	1年次	英語（外国語コミュニケーションを含む）	ESP	コミュニケーション英語Mc2(4)	2	SIMPSON ALAN MARK	後期	月曜日	3・4時限	清武	クラスは、所属学部の指示に従ってください
kslh1	医学部看護学科	1年次	英語（外国語コミュニケーションを含む）	ESP	英語Na2(1)	2	横山 彰三	後期	金曜日	3・4時限	清武	クラスは、所属学部の指示に従ってください
kslh2	医学部看護学科	1年次	英語（外国語コミュニケーションを含む）	ESP	英語Na2(2)	2	南部 みゆき	後期	金曜日	5・6時限	清武	クラスは、所属学部の指示に従ってください
ksli1	医学部看護学科	1年次	英語（外国語コミュニケーションを含む）	ESP	英語Nb2(1)	2	SIMPSON ALAN MARK	後期	金曜日	5・6時限	清武	クラスは、所属学部の指示に従ってください
ksli2	医学部看護学科	1年次	英語（外国語コミュニケーションを含む）	ESP	英語Nb2(2)	2	平井 悠	後期	金曜日	3・4時限	清武	クラスは、所属学部の指示に従ってください

講義コード	履修対象学部等	履修年次	科 目 群	講 義 名	単位	主担当教員	開講学期	曜日	時限	キャンパス	備 考
ks211	教育学部	1年次	専門接続系	スポーツ科学IIE(1)	1	宇土 昌志	後期	木曜日	5・6時限	木花	授業初日にオリエンテーション、クラス分けを予定。
ks212	教育学部	1年次	専門接続系	スポーツ科学IIE(2)	1	井関 実紀	後期	木曜日	5・6時限	木花	授業初日にオリエンテーション、クラス分けを予定。
ks213	教育学部	1年次	専門接続系	スポーツ科学IIE(3)	1	山本 順之	後期	木曜日	5・6時限	木花	授業初日にオリエンテーション、クラス分けを予定。
ks214	教育学部、医学部看護学科	1年次	専門接続系	スポーツ科学IIE・N(4)	1	宇土 昌志	後期	木曜日	7・8時限	木花	授業初日にオリエンテーション、クラス分けを予定。
ks215	教育学部、医学部看護学科	1年次	専門接続系	スポーツ科学IIE・N(5)	1	志々目 由理江	後期	木曜日	7・8時限	木花	授業初日にオリエンテーション、クラス分けを予定。
ks216	教育学部、医学部看護学科	1年次	専門接続系	スポーツ科学IIE・N(6)	1	山本 順之	後期	木曜日	7・8時限	木花	授業初日にオリエンテーション、クラス分けを予定。
ks361	医学部医学科	1年次	専門接続系	有機化学	2	徐 岩	後期	月曜日	1・2時限	清武	
ks371	医学部医学科	1年次	専門接続系	発生学	1	菱川 善隆	第3期	金曜日	5・6時限	清武	
ks424	地域資源創成学部	1年次	専門接続系	統計学基礎R	2	中野 敦	第3期	月曜日	5・6時限 7・8時限	木花	
ks431	地域資源創成学部	1年次	専門接続系	プロジェクトマネジメント	1	谷田貝 孝	第4期	火曜日	5・6時限	木花	
ks461	医学部医学科	1年次	専門接続系	専門教育入門セミナーM	2	澤口 朗	後期	金曜日	3・4時限	清武	
ks481	地域資源創成学部	1年次	専門接続系	学部教育入門セミナーR	1	永野 ひかる	第3期	火曜日	5・6時限	木花	

課題発見科目

	講義コード	履修対象学部等	履修年次	科 目 群	講 義 名	単位	主担当教員	開講学期	曜日	時限	キャンパス	受講上限	備 考
1	ksa01	全学部	1年次～	データサイエンス系	Pythonプログラミング演習	2	松澤 英之	後期	火曜日	7・8時限	木花	60	
2	ksa21	全学部(医学部看護学科を除く)	1年次～	データサイエンス系	データサイエンス入門	2	田村 宏樹	後期集中	その他	その他	木花	-	必修科目(必ず単位を修得すること) 遠隔講義科目(後期)
3	ksa31	医学部看護学科	1年次	データサイエンス系	データサイエンス入門N	2	藤井 良宜	後期	火曜日	3・4時限	木花	-	必修科目(必ず単位を修得すること)
4	ksa51	全学部	1年次・2年次	データサイエンス系	情報科学	2	内山 良一	後期	木曜日	3・4時限	木花	60	
5	ksab1	全学部	1年次・2年次	データサイエンス系	データサイエンス応用基礎 -プログラミング-	1	田村 宏樹	後期集中	その他	その他	木花	60	
6	ksac1	全学部	1年次・2年次	データサイエンス系	データサイエンス応用基礎 -PBL-	1	田村 宏樹	後期集中	その他	その他	木花	60	
7	ksb21	全学部	1年次・2年次	人文・社会・芸術系	ソーシャルデザイン	2	谷田貝 孝	後期	火曜日	7・8時限	木花	60	
8	ksb61	全学部	1年次～	人文・社会・芸術系	医療人文学入門：ナラティブから医療を考える	2	横山 彰三	後期	月曜日	5・6時限	清武	30	
9	ksb91	全学部	1年次・2年次	人文・社会・芸術系	障がい者支援入門	2	楠元 和美	後期	火曜日	7・8時限	木花	60	
10	ksba1	全学部	1年次～	人文・社会・芸術系	金融リテラシー講座	2	坂本 敬子	後期	火曜日	5・6時限	木花	250	
11	ksbd1	全学部	1年次・2年次	人文・社会・芸術系	現代ドイツへの招待-多面体として見る異文化社会-	2	胡屋 武志	後期	火曜日	7・8時限	木花	60	
12	ksbe1	全学部	1年次・2年次	人文・社会・芸術系	現代社会と家族	2	松岡 崇暢	後期	火曜日	5・6時限	木花	60	
13	ksbf1	全学部	1年次～	人文・社会・芸術系	現代社会と共生	2	深見 奨平	後期	火曜日	5・6時限	木花	60	
14	ksbg1	全学部	1年次・2年次	人文・社会・芸術系	現代社会と子供・青年	2	深見 奨平	後期	木曜日	3・4時限	木花	60	
15	ksbh1	全学部	1年次・2年次	人文・社会・芸術系	現代社会と法	2	足立 文美恵	後期	火曜日	7・8時限	木花	60	
16	ksbj1	全学部	1年次・2年次	人文・社会・芸術系	現代社会と歴史(2)-ヨーロッパと日本、その歴史と文化-	2	中堀 博司	後期	木曜日	1・2時限	木花	40	
17	ksbk1	全学部	1年次～	人文・社会・芸術系	言語学入門	2	金 智賢	後期	木曜日	7・8時限	木花	50	
18	ksbm1	全学部	1年次～	人文・社会・芸術系	言語文化概論-B	2	小柴 裕子	後期	木曜日	5・6時限	木花	15	
19	ksbo1	全学部	1年次・2年次	人文・社会・芸術系	人間の心と行動	2	境 泉洋	後期	火曜日	1・2時限	木花	60	
20	ksbp1	全学部	1年次・2年次	人文・社会・芸術系	人口減少社会における公民連携(PPP)のまちづくり	2	桑野 斉	後期	木曜日	1・2時限	木花	60	
21	ksbr1	全学部	1年次～	人文・社会・芸術系	生命保険論から社会人基礎力を涵養する	2	白上 努	後期	木曜日	3・4時限	木花	60	
22	ksbs1	全学部	1年次・2年次	人文・社会・芸術系	大学と学生	2	藤墳 智一	後期	木曜日	3・4時限	木花	40	
23	ksbv1	全学部	1年次・2年次	人文・社会・芸術系	美術と文化-美術鑑賞から異文化理解へ-	2	松下 久子	後期	火曜日	7・8時限	木花	50	
24	ksbx1	全学部	1年次～	人文・社会・芸術系	変貌する21世紀の世界-さまざまな地域の社会と文化	2	胡屋 武志	後期	木曜日	7・8時限	木花	60	
25	ksc21	全学部	1年次・2年次	人文・社会・芸術系	アート×テクノロジー×身体	2	樺島 優子	後期	火曜日	3・4時限	木花	20	
26	ksc31	全学部	1年次・2年次	人文・社会・芸術系	文学の魅力を知っていますか	2	新名 桂子	後期	木曜日	3・4時限	木花	30	
27	ksc41	全学部	1年次・2年次	人文・社会・芸術系	アントレプレナーシップI	2	土屋 有	後期	火曜日	3・4時限	木花	50	
28	ksc71	全学部	1年次・2年次	人文・社会・芸術系	労働・雇用リテラシー講座 ～人間らしくはたらくこととワークルール～	2	白上 努	後期	木曜日	3・4時限	木花	60	
29	ksc81	全学部	1年次・2年次	人文・社会・芸術系	租税リテラシー講座	2	坂本 敬子	後期	木曜日	5・6時限	木花	250	
30	ksd31	全学部	1年次～	自然・生命・技術系	科学技術と私たちの生活	1	関戸 知雄	第3期	木曜日	9・10時限	木花	60	
31	ksd51	全学部	1年次～	自然・生命・技術系	感染症のエッセンス	1	新 竜一郎	第3期	木曜日	3・4時限	木花	60	
32	ksd61	全学部	1年次～	自然・生命・技術系	機械と生活の中のトライボロジー(1)-数理-	1	古池 仁暢	第3期	木曜日	1・2時限	木花	60	
33	ksd71	全学部	1年次～	自然・生命・技術系	機械と生活の中のトライボロジー(2)	1	古池 仁暢	第4期	木曜日	1・2時限	木花	60	
34	ksda1	全学部	1年次～	自然・生命・技術系	人体の構造と機能	2	高橋 伸育	後期	火曜日	7・8時限	木花	60	
35	ksdb1	全学部	1年次・2年次	自然・生命・技術系	生物科学	2	西田 伸	後期	木曜日	1・2時限	木花	60	
36	ksdc1	全学部	1年次～	自然・生命・技術系	生命と病気	2	和田 啓	後期	火曜日	7・8時限	木花	60	

	講義 コード	履修対象学部等	履修 年次	科 目 群	講 義 名	単 位	主担当教員	開講 学期	曜日	時限	キャンパス	受講上限	備 考
37	ksdel	全学部	1年次・2年次	自然・生命・技術系	物質と電気の科学	2	太田 靖之	後期	木曜日	3・4時限	木花	40	
38	ksdgl	全学部	1年次～	自然・生命・技術系	日本の自然と災害	2	大平 明夫	後期	木曜日	3・4時限	木花	50	
39	ksdkl	全学部	1年次・2年次	自然・生命・技術系	身近な科学のはたらき	2	白上 努	後期	木曜日	7・8時限	木花	60	
40	ksdll	全学部	1年次・2年次	自然・生命・技術系	インフラストラクチャーと地域づくり	2	関戸 知雄	後期	木曜日	7・8時限	木花	60	
41	ksdml	全学部	1年次・2年次	自然・生命・技術系	物理計測入門	2	山内 誠	後期	木曜日	5・6時限	木花	60	
42	ksdnl	全学部	1年次・2年次	自然・生命・技術系	暮らしの中の半導体	2	吉野 賢二	後期	木曜日	7・8時限	木花	60	
43	ksdol	全学部	1年次・2年次	自然・生命・技術系	自然現象と工学	2	舛屋 賢	後期	木曜日	5・6時限	木花	60	
44	ksdpl	全学部	1年次・2年次	自然・生命・技術系	環境と化学	2	亀井 一郎	後期	木曜日	5・6時限	木花	60	
45	ksdql	全学部	1年次・2年次	自然・生命・技術系	現代社会と化学	2	中林 健一	後期	木曜日	3・4時限	木花	40	
46	ksdwl	全学部	1年次・2年次	自然・生命・技術系	ガチンコ分子細胞生物学	2	稲葉 丈人	後期	火曜日	1・2時限	木花	60	
47	ksfll	全学部	1年次・2年次	地域・国際・学際系	教養ドイツ語II(1)	2	胡屋 武志	後期	火曜日	3・4時限	木花	50	
48	ksfl2	全学部	1年次・2年次	地域・国際・学際系	教養ドイツ語II(2)	2	胡屋 武志	後期	木曜日	3・4時限	木花	50	
49	ksf5l	全学部	1年次・2年次	地域・国際・学際系	教養フランス語II	2	吉田 好克	後期	火曜日	3・4時限	木花	50	
50	ksf9l	全学部	1年次・2年次	地域・国際・学際系	教養中国語II	2	三好 慎一郎	後期	火曜日	3・4時限	木花	50	
51	ksfdl	全学部	1年次・2年次	地域・国際・学際系	教養韓国語II(1)	2	金 智賢	後期	火曜日	3・4時限	木花	50	
52	ksfd2	全学部	1年次・2年次	地域・国際・学際系	教養韓国語II(2)	2	金 智賢	後期	木曜日	3・4時限	木花	50	
53	ksfgl	全学部	1年次・2年次	地域・国際・学際系	「私」のキャリアとライフデザイン	2	児玉 由紀	後期	火曜日	5・6時限	木花	60	
54	ksfhl	全学部	1年次～	地域・国際・学際系	「人生の各ステージにおける学び」と博物館	2	藤本 将人	後期	木曜日	1・2時限	木花	100	
55	ksfil	全学部	1年次～	地域・国際・学際系	ヘルスサイエンス	2	武田 龍一郎	後期	火曜日	5・6時限	木花	60	
56	ksfjl	全学部	1年次～	地域・国際・学際系	ラーニングポートフォリオ入門セミナー：自分の学びを記録し振り返る	2	藤墳 智一	後期	火曜日	5・6時限	木花	40	
57	ksfkl	全学部	1年次～	地域・国際・学際系	宮崎の郷土と文化	2	白上 努	後期集中	その他	その他	木花	200	遠隔講義科目（後期）
58	ksfll	全学部	1年次～	地域・国際・学際系	宮崎の産業と産学・地域連携	2	小林 太一	後期	木曜日	3・4時限	木花	60	
59	ksfnl	全学部	1年次～	地域・国際・学際系	九州・沖縄学II	1	中村 佳文	後期集中	その他	その他	木花	10	遠隔講義科目（後期）
60	ksfpl	全学部	1年次・2年次	地域・国際・学際系	国際協力入門-世界を舞台に活躍する-	2	伊藤 健一	後期	火曜日	3・4時限	木花	60	
61	ksfsl	全学部	1年次～	地域・国際・学際系	博物館に学ぶ「モノの見方と見せ方」	2	宇田津 徹朗	後期	火曜日	1・2時限	木花	80	
62	ksghl	全学部	1年次・2年次	地域・国際・学際系	地域・企業マネジメントと人材育成	2	野元 健作	後期	火曜日	7・8時限	木花	60	

未来共創科目

講義 コード	履修対象学部等	履修 年次	科 目 群	講 義 名	単 位	主担当教員	開講 学期	曜日	時限	キャンパス	備 考
ksh1l	全学部	1年次	構想・デザイン系	地域キャリアデザインI（地域）	2	杉山 智行	後期	火曜日	1・2時限	木花	履修対象学部については、キャンパスガイド（教養教育）を確認してください。
ksh2l	全学部	1年次	構想・デザイン系	地域キャリアデザインI（プロジェクト設計）	2	共創人材育成部門	後期	木曜日	3・4時限	木花	履修対象学部については、キャンパスガイド（教養教育）を確認してください。

令和7年度 教養(基礎)教育科目一覧（後学期・第3期・第4期）
（令和7年度（2025年度）2年生以上用）

令和7年8月26日現在

- 注1) 授業の形態や講義室の定員等の関係上、受講人数を制限するため抽選を行うことがあります。ご了承ください。
- 注2) 開講する科目が変更になる場合がありますので、HPや掲示版の確認を随時おこなってください。
- 注3) 講義名の括弧書きの数字は、クラスを意味します。
- 注4) 「導入科目」は、すべて必修科目です。必ず単位を修得すること。
- 注5) 「課題発見科目」の自然・生命・技術系は、「環境と生命」を医学部学生は1年次の前学期に、医学部以外の学生は2年次の前学期に必ず履修してください。
- 注6) 「未来共創科目」は、履修対象学部等が科目によって異なるので留意してください。

導入科目

講義コード	履修対象学部等	履修年次	科目群		講義名	単位	主担当教員	開講学期	曜日	時限	キャンパス	備考
kslc3	教育学部	2年次	英語（外国語コミュニケーションを含む）	ESP	英語E3(3)	2	本多 正敏	後期	木曜日	5・6時限	木花	
kslc4	教育学部	2年次	英語（外国語コミュニケーションを含む）	ESP	英語E3(4)	2	新名 桂子	後期	木曜日	5・6時限	木花	
ksle1	医学部医学科	2年次	英語（外国語コミュニケーションを含む）	ESP	英語Mb2(1)	2	SIMPSON ALAN MARK	第3期	月曜日 水曜日	1・2時限 5・6時限	清武	クラスは、所属学部の指示に従ってください
ksle2	医学部医学科	2年次	英語（外国語コミュニケーションを含む）	ESP	英語Mb2(2)	2	平井 悠	第3期	月曜日 水曜日	1・2時限 5・6時限	清武	クラスは、所属学部の指示に従ってください
ksle3	医学部医学科	2年次	英語（外国語コミュニケーションを含む）	ESP	英語Mb2(3)	2	南部 みゆき	第3期	月曜日 水曜日	1・2時限 5・6時限	清武	クラスは、所属学部の指示に従ってください
ksli1	工学部	2年次	英語（外国語コミュニケーションを含む）	ESP	英語T4(1)	2	川崎 典子	後期	水曜日	7・8時限	木花	
ksli2	工学部	2年次	英語（外国語コミュニケーションを含む）	ESP	英語T4(2)	2	川崎 典子	後期	月曜日	3・4時限	木花	
ksli3	工学部	2年次	英語（外国語コミュニケーションを含む）	ESP	英語T4(3)	2	川崎 典子	後期	水曜日	5・6時限	木花	
ksli4	工学部	2年次	英語（外国語コミュニケーションを含む）	ESP	英語T4(4)	2	川崎 典子	後期	月曜日	1・2時限	木花	
ksli5	工学部	2年次	英語（外国語コミュニケーションを含む）	ESP	英語T4(5)	2	川崎 典子	後期	水曜日	1・2時限	木花	
ksli6	工学部	2年次	英語（外国語コミュニケーションを含む）	ESP	英語T4(6)	2	川崎 典子	後期	月曜日	7・8時限	木花	
ksln1	農学部	2年次	英語（外国語コミュニケーションを含む）	ESP	英語A4(1)	2	SCHAUERTE EDWARD MICHAEL	後期	木曜日	3・4時限	木花	
ksln2	農学部	2年次	英語（外国語コミュニケーションを含む）	ESP	英語A4(2)	2	内野 富子	後期	火曜日	7・8時限	木花	
ksln3	農学部	2年次	英語（外国語コミュニケーションを含む）	ESP	英語A4(3)	2	内野 富子	後期	木曜日	3・4時限	木花	
ksln4	農学部	2年次	英語（外国語コミュニケーションを含む）	ESP	英語A4(4)	2	前 恵子	後期	火曜日	7・8時限	木花	
ksln5	農学部	2年次	英語（外国語コミュニケーションを含む）	ESP	英語A4(5)	2	前 恵子	後期	木曜日	3・4時限	木花	
ksln6	農学部	2年次	英語（外国語コミュニケーションを含む）	ESP	英語A4(6)	2	HOMBU AMY	後期	木曜日	3・4時限	木花	
kslp1	地域資源創成学部	2年次	英語（外国語コミュニケーションを含む）	ESP	ビジネス英語I-2(1)	2	コリーン 横山	後期	月曜日	5・6時限	錦本町	★錦本町ひなたキャンパスで開講
kslp2	地域資源創成学部	2年次	英語（外国語コミュニケーションを含む）	ESP	ビジネス英語I-2(2)	2	市園 なお子	後期	月曜日	5・6時限	錦本町	★錦本町ひなたキャンパスで開講
kslp3	地域資源創成学部	2年次	英語（外国語コミュニケーションを含む）	ESP	ビジネス英語I-2(3)	2	内野 富子	後期	月曜日	5・6時限	錦本町	★錦本町ひなたキャンパスで開講
ks321	教育学部	2年次	専門接続系		教職キャリア教育	2	黒木 健一	後期	月曜日	1・2時限	木花	
ks331	教育学部	2年次	専門接続系		日本国憲法	2	湯田 拓史	後期	火曜日	9・10時限	木花	
ks471	農学部	2年次	専門接続系		専門教育接続セミナーA(1)	2	狩野 秀之	後期	月曜日	7・8時限	木花	クラス(1)は、植物生産環境科学科
ks472	農学部	2年次	専門接続系		専門教育接続セミナーA(2)	2	中園 健文	後期	金曜日	3・4時限	木花	クラス(2)は、森林緑地環境科学科
ks473	農学部	2年次	専門接続系		専門教育接続セミナーA(3)	2	小川 健二郎	後期	水曜日	3・4時限	木花	クラス(3)は、応用生物科学科
ks474	農学部	2年次	専門接続系		専門教育接続セミナーA(4)	2	西木 一生	後期	金曜日	3・4時限	木花	クラス(4)は、海洋生物環境学科
ks475	農学部	2年次	専門接続系		専門教育接続セミナーA(5)	2	飛佐 学	後期	水曜日	3・4時限	木花	クラス(5)は、畜産草地科学科
ks476	農学部	2年次	専門接続系		専門教育接続セミナーA(6)	2	新村 芳人	後期	水曜日	7・8時限	木花	クラス(6)は、獣医学科

課題発見科目

	講義 コード	履修対象学部等	履修 年次	科 目 群	講 義 名	単 位	主担当教員	開講 学期	曜日	時限	キャンパス	受講上限	備 考
1	ksa0l	全学部	1年次～	データサイエンス系	Pythonプログラミング演習	2	松澤 英之	後期	火曜日	7・8時限	木花	60	
2	ksa2l	全学部	3年次～	データサイエンス系	データサイエンス入門	2	田村 宏樹	後期集中	その他	その他	木花	60	遠隔講義科目（後期） 2023年度以前入学生のみ受講可能 ※2024年度入学生は1年次必修科目
3	ksa5l	全学部	1年次・2年次	データサイエンス系	情報科学	2	内山 良一	後期	木曜日	3・4時限	木花	60	2024年度入学生のみ受講可能
4	ksa6l	農学部応用生物科学科	2年次	データサイエンス系	数学の思考法	2	山口 尚哉	後期	木曜日	1・2時限	木花	-	必修科目（必ず単位を修得すること）
5	ksabl	全学部	1年次・2年次	データサイエンス系	データサイエンス応用基礎 -プログラミング-	1	田村 宏樹	後期集中	その他	その他	木花	60	2024年度入学生のみ受講可能
6	ksacl	全学部	1年次・2年次	データサイエンス系	データサイエンス応用基礎 -PBL-	1	田村 宏樹	後期集中	その他	その他	木花	60	2024年度入学生のみ受講可能
7	ksb2l	全学部	1年次・2年次	人文・社会・芸術系	ソーシャルデザイン	2	谷田貝 孝	後期	火曜日	7・8時限	木花	60	2024年度入学生のみ受講可能
8	ksb6l	全学部	1年次～	人文・社会・芸術系	医療人文学入門：ナラティブから医療を考える	2	横山 彰三	後期	月曜日	5・6時限	清武	30	
9	ksb9l	全学部	1年次・2年次	人文・社会・芸術系	障がい者支援入門	2	楠元 和美	後期	火曜日	7・8時限	木花	60	2024年度入学生のみ受講可能
10	ksbal	全学部	1年次～	人文・社会・芸術系	金融リテラシー講座	2	坂本 敬子	後期	火曜日	5・6時限	木花	250	
11	ksbdl	全学部	1年次・2年次	人文・社会・芸術系	現代ドイツへの招待-多面体として見る異文化社会-	2	胡屋 武志	後期	火曜日	7・8時限	木花	60	2024年度入学生のみ受講可能
12	ksbel	全学部	1年次・2年次	人文・社会・芸術系	現代社会と家族	2	松岡 崇暢	後期	火曜日	5・6時限	木花	60	2024年度入学生のみ受講可能
13	ksbfl	全学部	1年次～	人文・社会・芸術系	現代社会と共生	2	深見 奨平	後期	火曜日	5・6時限	木花	60	
14	ksbgl	全学部	1年次・2年次	人文・社会・芸術系	現代社会と子供・青年	2	深見 奨平	後期	木曜日	3・4時限	木花	60	2024年度入学生のみ受講可能
15	ksbhl	全学部	1年次・2年次	人文・社会・芸術系	現代社会と法	2	足立 文美恵	後期	火曜日	7・8時限	木花	60	2024年度入学生のみ受講可能
16	ksbjl	全学部	1年次・2年次	人文・社会・芸術系	現代社会と歴史（2）-ヨーロッパと日本、その歴史と文化-	2	中堀 博司	後期	木曜日	1・2時限	木花	40	2024年度入学生のみ受講可能
17	ksbkl	全学部	1年次～	人文・社会・芸術系	言語学入門	2	金 智賢	後期	木曜日	7・8時限	木花	50	
18	ksbml	全学部	1年次～	人文・社会・芸術系	言語文化概論-B	2	小柴 裕子	後期	木曜日	5・6時限	木花	15	
19	ksbol	全学部	1年次・2年次	人文・社会・芸術系	人間の心と行動	2	境 泉洋	後期	火曜日	1・2時限	木花	60	2024年度入学生のみ受講可能
20	ksbpl	全学部	1年次・2年次	人文・社会・芸術系	人口減少社会における公民連携(PPP)のまちづくり	2	桑野 斉	後期	木曜日	1・2時限	木花	60	2024年度入学生のみ受講可能
21	ksbrl	全学部	1年次～	人文・社会・芸術系	生命保険論から社会人基礎力を涵養する	2	白上 努	後期	木曜日	3・4時限	木花	60	
22	ksbsl	全学部	1年次・2年次	人文・社会・芸術系	大学と学生	2	藤墳 智一	後期	木曜日	3・4時限	木花	40	2024年度入学生のみ受講可能
23	ksbvl	全学部	1年次・2年次	人文・社会・芸術系	美術と文化-美術鑑賞から異文化理解へ-	2	松下 久子	後期	火曜日	7・8時限	木花	50	2024年度入学生のみ受講可能
24	ksbxl	全学部	1年次～	人文・社会・芸術系	変貌する21世紀の世界-さまざまな地域の社会と文化	2	胡屋 武志	後期	木曜日	7・8時限	木花	60	
25	ksbzl	全学部	2年次～	人文・社会・芸術系	「短歌県みやざき」ことばの力と牧水入門	2	共創人材育成部門	後期集中	その他	その他	木花	100	遠隔講義科目（後期）
26	ksc2l	全学部	1年次・2年次	人文・社会・芸術系	アート×テクノロジー×身体	2	樺島 優子	後期	火曜日	3・4時限	木花	20	2024年度入学生のみ受講可能
27	ksc3l	全学部	1年次・2年次	人文・社会・芸術系	文学の魅力を知っていますか	2	新名 桂子	後期	木曜日	3・4時限	木花	30	2024年度入学生のみ受講可能
28	ksc4l	全学部	1年次・2年次	人文・社会・芸術系	アントレプレナーシップI	2	土屋 有	後期	火曜日	3・4時限	木花	50	2024年度入学生のみ受講可能
29	ksc7l	全学部	1年次・2年次	人文・社会・芸術系	労働・雇用リテラシー講座 ～人間らしくはたらくこととワークルール～	2	白上 努	後期	木曜日	3・4時限	木花	60	2024年度入学生のみ受講可能
30	ksc8l	全学部	1年次・2年次	人文・社会・芸術系	租税リテラシー講座	2	坂本 敬子	後期	木曜日	5・6時限	木花	250	2024年度入学生のみ受講可能
31	ksd3l	全学部	1年次～	自然・生命・技術系	科学技術と私たちの生活	1	関戸 知雄	第3期	木曜日	9・10時限	木花	60	
32	ksd5l	全学部	1年次～	自然・生命・技術系	感染症のエッセンス	1	新 竜一郎	第3期	木曜日	3・4時限	木花	60	
33	ksd6l	全学部	1年次～	自然・生命・技術系	機械と生活の中のトライボロジー(1)-数理-	1	古池 仁暢	第3期	木曜日	1・2時限	木花	60	
34	ksd7l	全学部	1年次～	自然・生命・技術系	機械と生活の中のトライボロジー(2)	1	古池 仁暢	第4期	木曜日	1・2時限	木花	60	
35	ksdal	全学部	1年次～	自然・生命・技術系	人体の構造と機能	2	高橋 伸育	後期	火曜日	7・8時限	木花	60	
36	ksdbl	全学部	1年次・2年次	自然・生命・技術系	生物科学	2	西田 伸	後期	木曜日	1・2時限	木花	60	2024年度入学生のみ受講可能
37	ksdcl	全学部	1年次～	自然・生命・技術系	生命と病気	2	和田 啓	後期	火曜日	7・8時限	木花	60	
38	ksdel	全学部	1年次・2年次	自然・生命・技術系	物質と電気の科学	2	太田 靖之	後期	木曜日	3・4時限	木花	40	2024年度入学生のみ受講可能
39	ksdgl	全学部	1年次～	自然・生命・技術系	日本の自然と災害	2	大平 明夫	後期	木曜日	3・4時限	木花	50	
40	ksdkl	全学部	1年次・2年次	自然・生命・技術系	身近な科学のはたらき	2	白上 努	後期	木曜日	7・8時限	木花	60	2024年度入学生のみ受講可能
41	ksdll	全学部	1年次・2年次	自然・生命・技術系	インフラストラクチャーと地域づくり	2	関戸 知雄	後期	木曜日	7・8時限	木花	60	2024年度入学生のみ受講可能
42	ksdml	全学部	1年次・2年次	自然・生命・技術系	物理計測入門	2	山内 誠	後期	木曜日	5・6時限	木花	60	2024年度入学生のみ受講可能
43	ksdnl	全学部	1年次・2年次	自然・生命・技術系	暮らしの中の半導体	2	吉野 賢二	後期	木曜日	7・8時限	木花	60	2024年度入学生のみ受講可能
44	ksdol	全学部	1年次・2年次	自然・生命・技術系	自然現象と工学	2	舛屋 賢	後期	木曜日	5・6時限	木花	60	2024年度入学生のみ受講可能
45	ksdpl	全学部	1年次・2年次	自然・生命・技術系	環境と化学	2	亀井 一郎	後期	木曜日	5・6時限	木花	60	2024年度入学生のみ受講可能
46	ksdql	全学部	1年次・2年次	自然・生命・技術系	現代社会と化学	2	中林 健一	後期	木曜日	3・4時限	木花	40	2024年度入学生のみ受講可能
47	ksdwl	全学部	1年次・2年次	自然・生命・技術系	ガチンコ分子細胞生物学	2	稲葉 丈人	後期	火曜日	1・2時限	木花	60	2024年度入学生のみ受講可能
48	ksf1l	全学部	1年次・2年次	地域・国際・学際系	教養ドイツ語II(1)	2	胡屋 武志	後期	火曜日	3・4時限	木花	50	2024年度入学生のみ受講可能
49	ksf12	全学部	1年次・2年次	地域・国際・学際系	教養ドイツ語II(2)	2	胡屋 武志	後期	木曜日	3・4時限	木花	50	2024年度入学生のみ受講可能
50	ksf3l	全学部	2年次	地域・国際・学際系	教養ドイツ語IV	2	胡屋 武志	後期	火曜日	5・6時限	木花	50	2024年度入学生のみ受講可能
51	ksf5l	全学部	1年次・2年次	地域・国際・学際系	教養フランス語II	2	吉田 好克	後期	火曜日	3・4時限	木花	50	2024年度入学生のみ受講可能

	講義 コード	履修対象学部等	履修 年次	科 目 群	講 義 名	単 位	主担当教員	開講 学期	曜日	時限	キャンパス	受講上限	備 考
52	ksf9l	全学部	1年次・2年次	地域・国際・学際系	教養中国語II	2	三好 慎一郎	後期	火曜日	3・4時限	木花	50	2024年度入学生のみ受講可能
53	ksfdl	全学部	1年次・2年次	地域・国際・学際系	教養韓国語II(1)	2	金 智賢	後期	火曜日	3・4時限	木花	50	2024年度入学生のみ受講可能
54	ksfd2	全学部	1年次・2年次	地域・国際・学際系	教養韓国語II(2)	2	金 智賢	後期	木曜日	3・4時限	木花	50	2024年度入学生のみ受講可能
55	ksffl	全学部	2年次	地域・国際・学際系	教養韓国語IV	2	金 智賢	後期	火曜日	5・6時限	木花	50	2024年度入学生のみ受講可能
56	ksfgl	全学部	1年次・2年次	地域・国際・学際系	「私」のキャリアとライフデザイン	2	児玉 由紀	後期	火曜日	5・6時限	木花	60	2024年度入学生のみ受講可能
57	ksfhl	全学部	1年次～	地域・国際・学際系	「人生の各ステージにおける学び」と博物館	2	藤本 将人	後期	木曜日	1・2時限	木花	100	
58	ksfil	全学部	1年次～	地域・国際・学際系	ヘルスサイエンス	2	武田 龍一郎	後期	火曜日	5・6時限	木花	60	
59	ksfjl	全学部	1年次～	地域・国際・学際系	ラーニングポートフォリオ入門セミナー：自分の学びを記録し振り返る	2	藤墳 智一	後期	火曜日	5・6時限	木花	40	
60	ksfkl	全学部	1年次～	地域・国際・学際系	宮崎の郷土と文化	2	白上 努	後期集中	その他	その他	木花	200	遠隔講義科目（後期）
61	ksfli	全学部	1年次～	地域・国際・学際系	宮崎の産業と産学・地域連携	2	小林 太一	後期	木曜日	3・4時限	木花	60	
62	ksfni	全学部	1年次～	地域・国際・学際系	九州・沖縄学II	1	中村 佳文	後期集中	その他	その他	木花	10	遠隔講義科目（後期）
63	ksfpl	全学部	1年次・2年次	地域・国際・学際系	国際協力入門-世界を舞台に活躍する-	2	伊藤 健一	後期	火曜日	3・4時限	木花	60	2024年度入学生のみ受講可能
64	ksfsl	全学部	1年次～	地域・国際・学際系	博物館に学ぶ「モノの見方と見せ方」	2	宇田津 徹朗	後期	火曜日	1・2時限	木花	80	
65	ksghl	全学部	1年次・2年次	地域・国際・学際系	地域・企業マネジメントと人材育成	2	野元 健作	後期	火曜日	7・8時限	木花	60	2024年度入学生のみ受講可能

未来共創科目

講義 コード	履修対象学部等	履修 年次	科 目 群	講 義 名	単 位	主担当教員	開講 学期	曜日	時限	キャンパス	備 考
ksj2l	教育学部教職実践基礎コース	2年次	協働・創造系	SPARCプロジェクト実践演習I（授業づくり協働体験学習）	2	竹内 元	通年	火曜日	1・2時限	木花	

学士力発展科目

講義 コード	履修対象学部等	履修 年次	科 目 群	講 義 名	単 位	主担当教員	開講 学期	曜日	時限	キャンパス	備 考
kkjel	全学部	3年次	地域・学際系	地域デザイン概論II	2	共創人材育成部門	後期	月曜日	9・10時限	木花	2023年度以前入学生のみ受講可能
kklu1	全学部（再履修）	3年次	英語	英語ETARa2(再)	2	市園 なお子	後期	火曜日	9・10時限	木花	再履修登録については別途案内を確認してください
kklv1	全学部（再履修）	3年次	英語	英語ETARb2(再)	2	コリーン 横山	後期	木曜日	9・10時限	木花	再履修登録については別途案内を確認してください
kk523	工学部（再履修）	3年次	専門教育入門セミナー	専門教育入門セミナーT(再)(3)	2	鈴木 秀俊	後期	金曜日	5・6時限	木花	再履修登録については別途案内を確認してください
kk524	工学部（再履修）	3年次	専門教育入門セミナー	専門教育入門セミナーT(再)(4)	2	西岡 賢祐	後期	月曜日	3・4時限	木花	再履修登録については別途案内を確認してください
kk526	工学部（再履修）	3年次	専門教育入門セミナー	専門教育入門セミナーT(再)(6)	2	片山 晋	後期	金曜日	5・6時限	木花	再履修登録については別途案内を確認してください
kk551	地域資源創成学部（再履修）	3年次	専門教育入門セミナー	専門教育入門セミナーR(再)	2	西 和盛	後期集中	その他	その他	木花	再履修登録については別途案内を確認してください
kk1w7	工学部（再履修）	3年次	外国語系	英語T4(技術英語)(再)	2	HOMBU AMY	後期	火曜日	7・8時限	木花	再履修登録については別途案内を確認してください

医学部（看護学科）キャンパスガイド【学生便覧】抜粋

看護学科専門科目（専門基礎科目）教育課程表

区分		授業科目	授業方法	単位数 必修	選 択	1 年 前 学 期	2 年 後 学 期	2 年 前 学 期	3 年 後 学 期	3 年 前 学 期	4 年 後 学 期	4 年 前 学 期	備考	
専門基礎科目	人間理解	発達論	講義	1		1							必修4単位	
		医学・医療概論	講義	1		1								
		臨床心理学	講義	1				1						
		臨床倫理	講義	1								1		
		ENP BⅡ	講義		(4)			(2)	(2)					
		ENP BⅢ	講義		(4)					(2)	(2)			
	健康と疾病理解	解剖生理学	講義	2		2								必修16単位
		解剖生理学演習	演習	1			1							
		栄養生化学	講義	2			2							
		栄養生化学演習	演習	1			1							
		臨床病態学 (疾病の成因と生態防御)	講義	2		2								
		感染症学	演習	1				1						
		薬理学	講義	2				2						
		臨床薬理学	講義	1								1		
		疾病・治療論総論	講義	1				1						
		疾病・治療論Ⅰ (循環器系・腎臓・呼吸器系・内分泌・免疫・膠原病)	演習	1				1						
		疾病・治療論Ⅱ (消化器系、脳・神経系、血液、乳腺、麻酔)	演習	1				1						
		疾病・治療論Ⅲ (運動・感覚器系、泌尿生殖器系)	演習	1					1					
	保健社会の仕組の理解	公衆衛生学	講義	2					2					必修6単位
		疫学・保健統計	講義	1					1					
		社会福祉論	講義	2				2						
		看護関係法規	講義	1				1						
合 計				必修26単位									26単位以上修得	

※()印は自由科目

※ ENP (English for Nursing Professionals)

医学部（看護学科）キャンパスガイド【学生便覧】抜粋

看護学科専門科目教育課程表

区分	授業科目	授業方法	単位数		1 年		2 年		3 年		4 年		備 考
			必 修	選 択	前 学 期	後 学 期	前 学 期	後 学 期	前 学 期	後 学 期	前 学 期	後 学 期	
専 門 科 目	看護学原論	講義	2		2								必修73単位
	基礎看護技術Ⅰ (看護共通技術)	演習	2		2								
	基礎看護技術Ⅱ (日常生活援助技術)	演習	2			2							
	基礎看護技術Ⅲ (診療を支える看護技術)	演習	2				2						
	看護理論	講義	1			1							
	看護過程	演習	1					1					
	看護管理学	講義	1						1				
	医療安全論	講義	1						1				
	症状・徴候からみるフィジカルアセスメント	演習	1									1	
	ひむか看護実習Ⅰ	実習	1		1								
	基礎看護学実習Ⅰ	実習	1		1								
	基礎看護学実習Ⅱ	実習	2					2					
	在宅看護学												
	ひむか看護論	講義	2		2								
	在宅看護論	講義	2					2					
	在宅看護援助論	演習	1						1				
	ひむか看護実習Ⅱ	実習	1						1				
	在宅ケア実習	実習	2							2			
	地域看護学												
	対象別地域看護活動	講義	2					2					
	健康課題別地域看護活動	講義	1					1					
	健康教育論Ⅰ	講義	1					1					
	成人看護学概論	講義	1				1						
	成人看護援助論Ⅰ (慢性期における看護)	演習	1				1						
	成人看護援助論Ⅱ (急性期における看護)	講義	1				1						
	成人看護援助論Ⅲ (周手術期における看護)	演習	1					1					
	成人看護援助論Ⅳ (慢性・終末期における看護)	講義	1						1				
	成人看護援助論Ⅴ (看護過程と援助技術)	演習	1						1				
	老年看護学概論	講義	1				1						
	老年看護援助論Ⅰ (生活機能障害を持つ高齢者の看護)	講義	2					2					
	老年看護援助論Ⅱ (晩年期の課題解決に向けた看護)	演習	1						1				
	成人・老年看護学実習Ⅰ (クリティカル領域における看護)	実習	1							1			
	成人・老年看護学実習Ⅱ (病棟・外来における看護)	実習	3							3			
	成人・老年看護学実習Ⅲ (多様な場における高齢者の看護)	実習	3							3			
	精神看護学概論	講義	1				1						
	精神看護援助論Ⅰ (疾病の理解と看護援助)	講義	2					2					
	精神看護援助論Ⅱ (精神看護援助実践への理論と展開)	演習	1						1				
	精神看護学実習	実習	2							2			

医学部（看護学科）キャンパスガイド【学生便覧】抜粋

区分		授業科目	授業方法	単位数		1 年		2 年		3 年		4 年		備 考	
				必 修	選 択	前 学 期	後 学 期	前 学 期	後 学 期	前 学 期	後 学 期	前 学 期	後 学 期		
専 門 科 目	小児看護学	小児看護学概論	講義	1				1						選択2単位	
		小児看護援助論Ⅰ (子どもと家族の健康支援)	講義	1				1							
		小児看護援助論Ⅱ (子どもの療養・治療と看護)	演習	1					1						
		小児看護援助論Ⅲ (子どもの健康障害と看護)	演習	1						1					
		小児看護学実習	実習	2							2				
	母性看護学	母性看護学概論	講義	1				1							
		母性看護援助論Ⅰ (性と生殖に関する健康支援)	講義	1					1						
		母性看護援助論Ⅱ (周産期における健康支援)	演習	2						2					
		母性看護学実習	実習	2							2				
	統合と実践	看護研究Ⅰ (看護研究基礎)	講義	2							2				
		看護研究Ⅱ (看護研究演習)	実習	2									2		
		遺伝看護	講義	1							1				
		災害看護論	講義	1									1		
		総合実習	実習	3									3		
		健康運動看護実践論	講義		1						1				
		看護教育発達論	講義		1										1
心地よさをもたらす看護技術		講義		1								1			
	AYA世代の健康課題	講義・演習		1									1		
	がん看護	講義		1								1			
合 計				必修73単位 選択2単位										75単位以上を修得	
総 計				必修99単位 選択2単位										131単位以上を修得	

保健師課程

区分		授業科目	授業方法	単位数	1 年		2 年		3 年		4 年		備 考
					前 学 期	後 学 期	前 学 期	後 学 期	前 学 期	後 学 期	前 学 期	後 学 期	
専門科目	公衆衛生看護学	公衆衛生看護学概論	講義	1					1				
		公衆衛生看護演習	演習	1							1		
		地区活動論	講義	2					2				
		保健指導技術論	講義・演習	2					2				
		健康教育論Ⅱ	講義	1					1				
		疫学演習	講義・演習	2					2				
		公衆衛生看護管理	講義	1								1	
		公衆衛生看護管理演習	演習	1								1	
		保健医療福祉行政論	講義	1								1	
		公衆衛生看護学実習Ⅰ	実習	3								3	
		公衆衛生看護学実習Ⅱ	実習	2								2	
合 計				17									17単位を修得※

※ 卒業要件の131単位を修得の上、上記17単位が必要

7. 教 育 課 程

専門科目の履修方法等

- 1 1・2年次は、全学部共通の教養教育科目を履修すると並行して農学部設置の科目（学部共通科目・専門基盤科目・専門科目等）を履修する。
- 2 1年次ならびに3年次（獣医学科は4年次も対象）において、学部共通科目を履修する。学部共通科目は次の目標を持つ。すなわち、農学部の教育理念の中で謳っている、「社会の要請に応えるための農学に関する高度な専門性と技術を修得する」上で、基礎となる知識を身につけること。特に、高校で履修したことの理解を深め、その理解に基づいて専門科目を着実に履修できるようになること。この学部共通科目は、農学・獣医学入門、農学・獣医学グローバル入門、**農学・獣医学DX入門**、**農学・獣医学データサイエンス演習**、農学・獣医学の倫理と安全、農学・獣医学専門英語演習の6科目からなり、学科毎に設定された卒業要件及び履修指導に応じて履修する。（SPARC未来共創教育プログラムを適用する学生は当該6科目に加えて、「宮崎の地域活性化演習」を学部共通科目として追加で履修する必要がある）
また、農学科は1年次に各コースの取り扱う専門分野の基礎知識を修得するために、学科共通科目ならびに専門基盤科目と専門科目の一部を履修する。獣医学科は1年次から専門基盤科目と専門科目を履修する。
- 3 卒業に必要な単位として、教養教育科目36単位（導入科目16単位・課題発見科目および未来共創科目20単位）のほか専門科目として農学科は88単位以上、獣医学科学生は147単位（SPARC未来共創教育プログラムを適用する獣医学科学生は149単位）以上を修得しなければならない。
なお、卒業に必要な専門科目履修単位の内訳は、別表のとおりである。
- 4 単位の修得基準については、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準とし、適切な授業形態を1種類ないし複数組み合わせ、単位数に応じた適切な内容になるように、授業科目毎に設定する。
- 5 教育職員免許法に基づく高等学校教諭一種免許状を取得しようとする者は、教科に関する科目及び教職に関する専門科目についての所定の単位を修得しなければならない。
- 6 担当教員及び授業科目の内容については、年度により一部変更することがあるので注意すること。
なお、『授業科目担当教員』欄の『関係教員』については、『授業科目担当教員（関係教員）一覧表』を参照すること。

成績送付について

農学部では、学生の単位修得などの勉学状況を保証人にも共有するために、保証人に対する成績通知書の送付を行います。保証人の住所が変更になった学生は、農学部教務・学生支援係まで届け出てください。

成績評価に係る試験等における不正行為について

成績評価に係る試験等において不正行為を行った者は、「宮崎大学農学部専門科目の受講及び成績評価に関する細則」第12条により、宮崎大学学務規則及び宮崎大学学生の懲戒に関する基準及び試験等における不正行為の取扱いに関する申合せにより懲戒され、当該科目及び当該学期の科目の成績について

●令和3年度から開始している宮崎大学データサイエンス・AI教育プログラム（リテラシー）（R4認定、リテラシープラスに選定）からの積み上げとして、全学部を対象にした応用基礎レベルの教育プログラムを令和4年度より実施 ※工学部は、データサイエンス・AI教育プログラム（応用基礎）に令和4年度認定済みである。

●令和6年度には、全学部ともデータサイエンス系科目を教養教育科目として1科目必修化し、教養教育科目に「データサイエンス入門」または「データサイエンス入門N」、「データサイエンス応用」、「データサイエンス分析実践」「データサイエンス応用基礎-プログラミング-」「データサイエンス応用基礎-プログラミング-」等を開設しており、希望する学生が受講しやすい環境を提供。

●学生の興味・理解を深めるために、IT企業による最新トピックのセミナー・座談会を定期的を開催したり、質問対応・サポート体制を設けて、数理データサイエンス・AI教育の充実を図る。

【実施体制】 数理・データサイエンス・AI教育強化拠点コンソーシアム九州・沖縄ブロックの連携校として、宮崎大学数理データサイエンス部門にて運営

修了要件

教育学部・医学部・農学部(令和6年度入学生まで)・地域資源創成学部

「データサイエンス入門」、「データサイエンス応用」または「データサイエンス応用基礎—プログラミング—」の2科目、統計学科目群から1科目、データサイエンス・AI実践科目群から1科目の計3科目または4科目を取得

看護学科:「データサイエンス入門N」、「データサイエンス応用」または「データサイエンス応用基礎-プログラミング-」の2科目、データサイエンス・AI実践科目群から1科目の計3科目を取得

工学部

農学部(令和)7年度入学生から

数理情報Ⅰ、Ⅱ」「プロジェクト演習」の3科目計5単位を取得

「データサイエンス入門」「農学・獣医学DX入門」「農学・獣医学データサイエンス演習」の3科目計6単位を取得

【プログラムの目的・人材養成像】

- a) 目的に応じて適切なデータ収集・抽出・分析を行う能力やAI技術を活用し課題解決につなげることができる
b) 数理・データサイエンスの考え方を自然科学から人文・社会科学における様々な問題に応用できる
c) 数理やコンピュータの知識や技術を用いて様々なデータの情報処理を行い、考察ができる
d) 各種データの統計的な取り扱いの方法について理解し、統計量の計算をすることができる
e) 代表的なデータサイエンスの手法を使ってデータの処理ができ、現実の問題に適用できる

【カリキュラム対応表】教育学部・医学部・農学部（令和6年度入学生まで）・地域資源創成学部

データサイエンス基礎				データエンジニアリング基礎			AI基礎				
1-1.	1-2.	1-6.	1-7.	2-1.	2-2.	2-7.	3-1.	3-2.	3-3.	3-4.	3-9
全データサイエンスの入り口	データ分析の動作原理と分析設計	数学基礎	アルゴリズム	データエンジニアリングの入り口	データの表現	データエンジニアリング基礎	この講義で学ぶ理由と学習の方向性	データと社会	機械学習の基礎と応用	深層学習の基礎と応用	この講義で学ぶ理由と学習の方向性

【数理・データサイエンス・AI教育体系】

応用・実践
卒業研究や専門科目

応用基礎
教育(R4～)

教養養育科目＋学部専門科目で実施

リテラシー教育(R3～)
全学生を対象に必修化

工学部

応用基礎レベル(R3～)

大学単位へ
(R4から)

宮崎大学データサイエンス・AI教育プログラム（応用基礎） 必修科目

[illegible]

【統計学科目群】 以下のいずれか1科目を選択必修（※医学部看護学科を除く）

[illegible]

【データサイエンス・AI実践科目群】 以下のいずれか1科目を選択必修

教養教育科目（１単位）	データサイエンス応用基礎-PBL-	全学開講	統計データはまた提供された実データを用い、チーム内で議論し、協働して統計学を主とするデータサイエンスを用いて分析・可視化することを通して、課題解決力やコミュニケーション能力を身に付ける。
教養教育科目（１単位）	データサイエンス分析実践	全学開講	
地域資源創成学部 専門基礎科目（２単位）	次世代技術と産業（R5～）		
農学部 専門科目(1単位)	植物生産データエンジニアリング（植物生産環境学科）		
農学部 専門科目(1単位)	森林計画学実習（森林緑地環境学科）		
農学部 専門科目(1単位)	食品機能化学実験(応用生物科学科)（R5～）		
農学部 専門科目(1単位)	生物機能科学実験(応用生物科学科)（R5～）		
医学部看護学科 専門科目（２単位）	疫学演習		農学分野における数理・データサイエンス・AI活用事例を学ぶ。学生は、自分の専門分野における諸問題を実データを対象に「データ・A活用、企画・実施・評価」の理解を深めることができ、これらの実験をととして、学生は実践力を修得することができる。